

平成 25 年度

第 10 回 八大学工学系連合会  
博士学生交流フォーラム  
報告書

## 目次

### フォーラム実施報告

1. 開催要領 .....	4
2. タイムテーブル .....	5
3. 参加者一覧 .....	6
4. 各イベント報告 .....	12
4.1 特別講演 .....	12
4.2 ポスターセッション .....	14
4.3 グループ討論 .....	15
4.4 次年度に向けて .....	16

### 企画・準備作業報告

1. 準備作業タイムライン .....	18
2. フォーラム企画意図 .....	21
2.1 はじめに .....	21
2.2 課題点の整理 .....	21
2.3 フォーラム全体 .....	22
2.4 基調テーマ .....	23
2.3 特別講演 .....	23
2.4 学生ポスターセッション .....	24
2.5 グループ討論 .....	24
2.6 当日配布パンフレット .....	25
2.7 ウェブサイトを利用した情報公開 .....	25
3. 学生アンケート結果 .....	26
4. 幹事学生感想・提案 .....	35

### 添付資料

添付資料 1 : 幹事代表（前年度参加者）より幹事学生全体への作業方針連絡 .....	47
添付資料 2 : 幹事学生による全体テーマ案 .....	50
添付資料 3 : 大学事務より各大学専攻への参加者推薦依頼 .....	53
添付資料 4 : フォーラム開催案内 .....	54
添付資料 5 : フォーラム趣旨文 .....	55
添付資料 6 : グループ討論方針 .....	57
添付資料 7 : 参加学生へのイベント詳細案内 .....	60
添付資料 8 : 学内向け開催案内 .....	64
添付資料 9 : 広報用ポスター .....	65
添付資料 10 : 前年度フォーラム参加者参考意見 .....	66
添付資料 11 : 幹事代表より関係者全体に向けてのフォーラム趣旨文補足 .....	68
添付資料 12 : パンフレット自己紹介記入フォーム .....	70
添付資料 13 : 学生ポスターリスト .....	72
添付資料 14 : 配布タイムテーブル .....	73
添付資料 15 : メール一覧 .....	74

# フォーラム実施報告

## 1. 開催要領

2013年11月8、9日の両日、京都大学桂キャンパス船井哲良記念講堂において、平成25年度八大学工学系連合会「博士学生交流フォーラム」を開催した。

参加大学は8大学（北海道，東北，東京，東京工業，名古屋，京都，大阪，九州）の工学系研究科（大阪大学のみ工，基礎工の2研究科）であり，本年度は新たに九州大学芸術工学府からの参加を得た。登録参加者数は，学生37名（京大幹事学生10名を含む），教員10名，産業界アドバイザー9名，支援団体（NPO法人UCEE ネット）・京大関係者9名の計65名であり，これに特別講演者の2名を加え，合計で67名の参加となった。

主な実施内容は例年通りであり，特別講演・学生ポスターセッション・グループ討論と全体発表を行った。第一日目の夜には，桂キャンパス内のレストランにおいて懇親会を開催した。

<b>日時)</b>	平成25年11月8日（金）～9日（土）
<b>主催)</b>	八大学工学系連合会（協力：NPO法人UCEE ネット）
<b>会場)</b>	京都大学大学院工学研究科（桂キャンパス内） 船井哲良記念講堂・船井交流センター（フォーラム） レストラン ラ・コリーヌ（懇親会）
<b>基調テーマ)</b>	「工学博士としての生き方」
<b>グループ討論課題)</b>	「八年後の博士課程を考える」
<b>参加費)</b>	学生 3,000 円 教員・大学関係者 4,000 円
<b>宿泊費)</b>	8,380 円（ホテル 京都・ベース）

## 2. タイムテーブル

時間	内容	場所
11月8日(1日目)		
11:00 - 13:00	受付・ポスター掲示	
13:00 - 13:10	開会の挨拶 京都大学工学研究科 材料工学専攻 白井 泰治 教授	講堂
13:10 - 14:00	特別講演1：芥川 一則 先生 【東日本大震災復興における研究者の取り組み】 福島工業高等専門学校 コミュニケーション情報学科 教授 広野町除染作業委託審査委員会 委員長 特定被災地域公共交通調査事業調査事業連絡協議会会長 他	講堂
14:00 - 14:10	休憩	
14:10 - 15:00	特別講演2：川口 淳一郎 先生 【やれる理由を見つけて挑戦することが独創をかなえる】 宇宙航空研究開発機構 シニアフェロー 宇宙科学研究所 宇宙飛翔工学研究系 教授	講堂
15:00 - 15:10	集合写真撮影	講堂
15:10 - 15:20	会場移動・休憩	
15:20 - 15:40	ポスターセッション (A グループ)	国際連携 ホール
15:40 - 16:00	ポスターセッション (B グループ)	
16:00 - 16:20	ポスターセッション (C グループ)	
16:20 - 16:40	ポスターセッション (D グループ)	
16:40 - 16:50	移動・休憩	
16:50 - 19:00	グループ討論	各会議室
19:00 - 19:10	会場移動・休憩	
19:10 - 21:00	懇親会	レストラン
11月9日(2日目)		
9:20 - 11:10	グループ討論	各会議室
11:10 - 11:20	移動・休憩	
11:20 - 13:00	討論発表	講堂
13:00 - 13:30	閉会の挨拶	講堂

### 3. 参加者一覧

フォーラム関係者	参加学生	他大学	27名
		京大幹事学生	10名
		<u>計</u>	<u>37名</u>
参加教員	他大学		9名
	京大教員		1名
		<u>計</u>	<u>10名</u>
UCEEネット関係者			
	参加アドバイザー（産業界		9名
	（大学教員		3名
	<u>計</u>		<u>12名</u>
	特別講演者		<u>2名</u>
	八大学連合会事務局		<u>1名</u>
京大関係者（教員）			
	北野 研究科長		
	白井 実行委員長		
	<u>計</u>		<u>2名</u>
京大事務関係者			
	教務課長		
	教務課長補佐		
	大学院掛事務担当者		
	<u>計</u>		<u>3名</u>
	<u>合計</u>		<u>67名</u>

参加者名簿

京都大学 幹事学生

大学名	所属専攻	学年	氏名
京都大学 大学院	工学研究科	都市社会工学専攻	D 3 久保 大樹 (クボ タイキ)
	工学研究科	機械理工学専攻	D 1 初島 匡成 (ハットリ マサナリ)
	工学研究科	電子工学専攻	D 1 木村 知玄 (キムラ トモハル)
	工学研究科	都市環境工学専攻	D 2 周 靨 (シュウ リャン)
	工学研究科	建築学専攻	D 1 小林 祐貴 (コバヤシ ユウキ)
	工学研究科	マイクロエンジニアリング専攻	D 1 埜崎 寛雄 (ノザキ ヒロオ)
	工学研究科	原子核工学専攻	D 3 武川 哲也 (ムカワ テツヤ)
	工学研究科	材料化学専攻	D 2 栗田 寅太郎 (クリタ トラタロウ)
	工学研究科	物質エネルギー化学専攻	D 2 谷 洋介 (タニ ヨウスケ)
	工学研究科	分子工学専攻	D 1 中辻 博貴 (ナカツジ ヒロタカ)

学生

大学名	所属専攻	学年	氏名
北海道大学 大学院	工学院	エネルギー環境システム専攻	D 1 青山 祐介 (アオヤマ ユウスケ)
	工学院	エネルギー環境システム専攻	D 1 赤澤 眞之 (アカザワ マサユキ)
	工学院	北方圏環境政策工学専攻	D 2 Du QianQian (ドウ チェンチェン)
	工学院	環境循環システム専攻	D 2 檀上 堯 (ダンジョウ タカシ)
	総合化学院	総合化学専攻	D 2 高田 健司 (タカダ ケンジ)

東北大学 大学院	工学研究科	量子エネルギー工学専攻	D 2	福田 誠 (フクダ マコト)
	工学研究科	技術社会システム専攻	D 3	栃木 靖久 (トチギ ヤスヒサ)
	工学研究科	技術社会システム専攻	D 1	臼井 岳文 (ウスイ タカフミ)
	環境科学研究科	環境科学専攻	D 1	寺坂 宗太 (テラサカ ソウタ)
東京大学 大学院	工学系研究科	機械工学専攻	D 2	木崎 通 (キザキ トオル)
	工学系研究科	航空宇宙工学専攻	D 1	藤川 貴弘 (フジカワ タカヒロ)
	工学系研究科	原子力国際専攻	D 1	山元 祐太 (ヤマモト ユウタ)
東京工業大学 大学院	理工学研究科	機械制御システム専攻	D 1	和佐 泰明 (ワサ ヤスアキ)
	生命理工学研究科	生命情報専攻	D 2	東 光一 (ヒガシ コウイチ)
	生命理工学研究科	生物プロセス専攻	D 1	野原 健太 (ノハラ ケンタ)
	総合理工学研究科	物理情報システム専攻	D 1	落合 奈芙蓉 (オチアイ ナウカ)
名古屋大学 大学院	工学研究科	化学・生物工学専攻	D 2	根路銘 葉月 (ネロメ ハヅキ)
	工学研究科	マテリアル理工学専攻	D 1	水谷 剛士 (ミズタニ ツヨシ)
	工学研究科	電子情報システム専攻	D 1	中野 裕介 (ナカノ ユウスケ)
大阪大学 大学院	情報科学研究科	バイオ情報工学専攻	D 2	大野 聡 (オオノ サトシ)
	工学研究科	電気電子情報工学専攻	D 1	井上 文彰 (イノウエ ヨシアキ)
	基礎工学研究科	機能創成専攻	D 1	吉本 明史 (ヨシモト アキフミ)
九州大学 大学院	工学府	海洋システム工学専攻	D 2	安藤 悠人 (アンドウ ユウト)
	工学府	化学システム工学専攻	D 2	森 裕太郎 (モリ ユウタロウ)
	工学府	物質創造工学専攻	D 2	植木 亮介 (ウエキ リョウスケ)
	芸術工学府	デザインストラテジー専攻	D 2	王 昕 (オウ キン)
	芸術工学府	デザインストラテジー専攻	D 2	李 芝妍 (イ ジョン)

## 教員等

大学名	所属専攻	学年	氏名
北海道大学大学院 工学院	北方圏環境政策工学専攻	准教授	松本 高志 (マツモト タカシ)
東北大学大学院 工学研究科	化学工学専攻	教授	塚田 隆夫 (ツカダ タケオ)
東京大学大学院 工学系研究科	国際工学教育推進機構 プロジェクト調整部門担当	専門職員	枝 丈雄 (エダ タケオ)
東京大学大学院 工学系研究科	国際工学教育推進機構	助教	Jorg Entzinger (ヨルグ エントジンガー)
東京工業大学大学院 理工学研究科	工学基礎科学講座	准教授	調 麻佐志 (シラベ マサシ)
名古屋大学大学院 工学研究科	機械理工学専攻	教授	社本 英二 (シャモト エイジ)
大阪大学大学院 工学研究科	電気電子情報工学専攻	教授	井上 恭 (イノウエキョウ)
九州大学大学院 工学研究院	機械工学部門	教授	伊藤 衡平 (イトウ コウヘイ)
九州大学大学院 芸術工学研究院	デザインストラテジー部門	教授	森田 昌嗣 (モリタ ヨシツグ)
京都大学大学院 工学研究科	高分子化学専攻	助教	松下 哲士 (マツシタ サトシ)

## 参加者 (UCEE ネット大学理事)

大学名	所属専攻	学年	UCEE ネット	氏名
大阪大学大学院 基礎工学研究科	システム創成専攻	教授	理事	佐藤 宏介 (サトウ コウスケ)
東北大学大学院 工学研究科	知能デバイス材料学専攻	教授	理事	杉本 諭 (スギモト サトシ)
京都大学大学院 工学研究科	航空宇宙工学専攻	教授	副理事長	吉田 英生 (ヨシダ ヒデオ)

### 産業界アドバイザー

会社名	所属・役職	UCEE ネット	氏名
鳥居薬品株式会社	専務取締役	理事長	籠橋 雄二 (カゴハシ ユウジ)
株式会社 新菱	取締役技術部門長	副理事長	田中 稔 (タナカ ミノル)
千代田化工建設株式会社	HRMユニット 課長	運営委員	小暮 哲二 (コグレ テツジ)
三菱化学株式会社	人事部採用グループ グループマネージャー	正会員	福沢 純一 (フクザワ ジュンイチ)
日本たばこ産業株式会社	R&Dグループ R&D企画部	アドバイザー	平地 圭 (ヒラチ ケイ)
千代田化工建設株式会社	石油・化学・新エネルギー 設計ユニット課長	アドバイザー	安井 威公 (ヤスイ タケヒト)
株式会社ブリヂストン	人事部採用ユニット	アドバイザー	畔柳 達彦 (クロヤナギ タツヒコ)
鳥居薬品株式会社	ビジネスディベロップメント部 係長	アドバイザー	加藤 健人 (カトウ タケヒト)
株式会社 新菱	技術部門開発本部 部長代理	アドバイザー	末次 幸人 (スエツグ ユキヒト)

### 関係者

所属	身分	氏名
八大学連合会事務局	事務局長	吉川 孝三 (ヨシカワ コウゾウ)
京都大学大学院 工学研究科	研究科長	北野 正雄 (キタノ マサオ)
	副研究科長 実行委員長	白井 泰治 (シライ ヤスハル)
	教務課長	小島 光明 (コジマ ミツアキ)
	教務課課長補佐兼大学院掛長	小西 孝則 (コニシ タカノリ)
	教務課大学院掛事務担当者	中川 千恵子 (ナカガワ チエコ)

グループ討論・ポスターセッション班分け

所属	専攻名/役職	身分	氏名	部屋割(班番号)	ポスター
北海道大学	北方圏環境政策工学専攻	D2	Du QianQian (ドウ チェンチェン)	21	A
東北大学	環境科学専攻	D1	寺坂 宗太 (テラスカ ソウタ)		B
東京工業大学	生物プロセス専攻	D1	野原 健太 (ノハラ ケンタ)		C
大阪大学	電気電子情報工学専攻	D1	井上 文彰 (イノウエ ヨシアキ)		D
九州大学	物質創造工学専攻	D2	植木 亮介 (ウエキ リョウスケ)		A
京都大学	原子核工学専攻	D3	武川 哲也 (ムカワ テツヤ)		B
名古屋大学大学院工学研究科	機械理工学専攻	教授	社本 英二 (シヤモト エイジ)		-
京都大学大学院工学研究科	高分子化学専攻	助教	松下 哲士 (マツシタ サトシ)		-
千代田化工建設株式会社	石油・化学・新エネルギー設計ユニット課長	アドバイザー	安井 威公 (ヤスイ タケヒト)		-
株式会社ブリヂストン	人事部採用ユニット	アドバイザー	畔柳 達彦 (クロヤナギ タツヒコ)		-
東北大学	量子エネルギー工学専攻	D2	福田 誠 (フクダ マコト)		C
東京大学	原子力国際専攻	D1	山元 祐太 (ヤマモト ユウタ)		D
名古屋大学	マテリアル理工学専攻	D1	水谷 剛士 (ミズタニ ツヨシ)		A
九州大学	化学システム工学専攻	D2	森 裕太郎 (モリ ユウタロウ)	B	
京都大学	都市環境工学専攻	D2	周 靚 (シュウ リヤン)	C	
京都大学	電子工学専攻	D1	木村 知玄 (キムラ トモハル)	D	
福島工業高等専門学校	コミュニケーション情報学科	教授	芥川 一則 (アケタガワ カズノリ)	-	
東京大学大学院工学系研究科	国際工学教育推進機構	アドバイザー	枝 文雄 (エダ タケオ)	-	
株式会社 三菱	技術部門開発本部 部長代理	アドバイザー	末次 幸人 (スエツグ ユキヒト)	-	
北海道大学	エネルギー環境システム専攻	D1	青山 祐介 (アオヤマ ユウスケ)	31	A
東北大学	技術社会システム専攻	D3	栃木 靖久 (トチギ ヤスヒサ)		B
東京工業大学	機械制御システム専攻	D1	和佐 泰明 (ワサ ヤスアキ)		C
名古屋大学	化学・生物工学専攻	D2	根路銘 葉月 (ネロメ ハツキ)		D
九州大学	デザインストラテジー専攻	D2	李 芝妍 (イ ジョン)		A
京都大学	建築学専攻	D1	小林 祐貴 (コバヤシ ユウキ)		B
大阪大学大学院工学研究科	電気電子情報工学専攻	教授	井上 恭 (イノウエ キョウ)		-
北海道大学大学院工学院	北方圏環境政策工学専攻	准教授	松本 高志 (マツモト タカシ)		-
三菱化学株式会社	人事部採用グループ グループマネジャー	正会員	福沢 純一 (フクザワ ジュンイチ)		-
北海道大学	エネルギー環境システム専攻	D1	赤澤 眞之 (アカザワ マサユキ)		C
東北大学	技術社会システム専攻	D1	臼井 岳文 (ウスイ タカフミ)		D
東京工業大学	生命情報専攻	D2	東 光一 (ヒガシ コウイチ)		A
大阪大学	バイオ情報工学専攻	D2	大野 聡 (オノ サトシ)		B
九州大学	デザインストラテジー専攻	D2	王 昕 (オウ キン)	C	
京都大学	マイクロエンジニアリング専攻	D1	埜崎 寛雄 (ノザキ ヒロオ)	D	
東北大学大学院工学研究科	化学工学専攻	教授	塚田 隆夫 (ツカダ タカオ)	-	
鳥居薬品株式会社	専務取締役	理事長	籠橋 雄二 (カゴハシ ユウジ)	-	
日本たばこ産業株式会社	R&Dグループ R&D企画部	アドバイザー	平地 圭 (ヒラチ ケイ)	-	
北海道大学	総合化学専攻	D2	高田 健司 (タカダ ケンジ)	33	A
東京大学	航空宇宙工学専攻	D1	藤川 貴弘 (フジカワ タカヒロ)		B
名古屋大学	電子情報システム専攻	D1	中野 裕介 (ナカノ ユウスケ)		C
九州大学	海洋システム工学専攻	D2	安藤 悠人 (アンドウ ユウト)		D
京都大学	分子工学専攻	D1	中辻 博貴 (ナカツジ ヒロタカ)		A
京都大学	物質エネルギー化学専攻	D2	谷 洋介 (タニ ヨウスケ)		B
九州大学大学院工学研究院	機械工学部門	教授	伊藤 衡平 (イトウ コウヘイ)		-
東京工業大学大学院理工学研究科	工学基礎科学講座	准教授	調 麻佐志 (シラベ マサシ)		-
千代田化工建設株式会社	HRMユニット 課長	運営委員	小暮 哲二 (コグレ テツジ)		-
北海道大学	環境循環システム専攻	D2	檀上 堯 (ダンジョウ タカシ)		C
東京大学	機械工学専攻	D2	木崎 通 (キザキ トオル)		D
東京工業大学	物理情報システム専攻	D1	落合 奈美香 (オチアイ ナウカ)		A
大阪大学	機能創成専攻	D1	吉本 明史 (ヨシモト アキフミ)		B
京都大学	機械理工学専攻	D1	初島 匡成 (ハツリ マサナリ)	C	
京都大学	材料化学専攻	D2	栗田 真太郎 (クリタ トラタロウ)	D	
九州大学大学院芸術工学研究院	デザインストラテジー部門	教授	森田 昌嗣 (モリタ ヨシツグ)	-	
東京大学大学院工学系研究科	国際工学教育推進機構	助教	森田 Entzinger (ヨルグ エントジンガー)	-	
株式会社 三菱	取締役技術部門長	副理事長	田中 稔 (タナカ ミノル)	-	
鳥居薬品株式会社	ビジネスディベロップメント部 係長	アドバイザー	加藤 健人 (カトウ タケヒト)	-	

## 4. 各イベント報告

### 4.1 特別講演

「工学博士としての生き方」を基調テーマとして、講演者2名を招き、フォーラムの初めに特別講演として下記の講演を頂戴した。(本年度は、グループ討論課題設定との兼ね合いから「基調テーマ」「特別講演」という名称を用いた)

#### 講演者1

芥川一則 教授 「東日本大震災復興における研究者の取り組み」  
福島工業高等専門学校 コミュニケーション情報学科  
広野町除染作業委託審査委員会委員 (委員長) ほか

#### 経歴

工学者，博士（情報科学）。1985年立命館大学理工学部土木工学科卒業後、福島県会津坂下町役場に勤務。1990年から福島県庁に勤務。1996年に福島大学大学院経済学研究科経営学専攻修士課程を修了。1998年から福島工業高等専門学校建設環境工学科に助手として着任。2001年に東北大学大学院情報科学研究科人間社会情報科学専攻博士課程を修了。2002年、福島工業高等専門学校コミュニケーション情報学科に准教授として着任。2010年に同学科の教授に就任。

#### 講演内容

東日本大震災後の復旧・復興のための活動紹介を通して、高専・大学など高等教育機関が地域・企業と連携していく中で果たすべき役割についての考えを述べられた。「安全」だけでなく「安心」を与えることの大切さや、必要とされる技術とアイデアを迅速に提供していくための心構えなど、学術的な専門性だけでなく「社会の中で自身の能力を役立てる」ことの重要性についてお話を頂いた。

## 講演者 2

川口淳一郎 教授 「やれる理由を見つけて挑戦することが独創をかなえる」

独立行政法人宇宙航空研究開発機構 シニアフェロー

小惑星探査機「はやぶさ」プロジェクトマネージャー (1996-2011)

## 経歴

宇宙工学者，工学博士。1978年 京都大学工学部卒業後，東京大学大学院工学系研究科航空学専攻博士課程を修了し，旧文部省宇宙科学研究所に助手として着任，2000年に教授に就任。2007年4月から2011年9月まで，月惑星探査プログラムグループ プログラムディレクタ (JSPEC/JAXA)、1996年から2011年9月まで，「はやぶさ」プロジェクトマネージャーを務める。

現在，独立行政法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所(ISAS/JAXA) 宇宙飛翔工学研究系教授、2011年8月より，シニアフェローを務める。ハレー彗星探査機「さきがけ」、工学実験衛星「ひてん」、火星探査機「のぞみ」などのミッションに携わり，小惑星探査機「はやぶさ」では，プロジェクトマネージャーを務めていた。

## 講演内容

小惑星探査衛星「はやぶさ」のプロジェクトなどこれまでの研究活動や，関連する研究者達のエピソードを交えて「最先端を切り引いていく思考」についての講演を頂いた。軽妙なお話に会場からは度々笑いがおこり，また，過去の研究に縛られない自由な発想が必要だという熱いメッセージは，学生達に強く印象を与えた。



写真1 芥川先生講演の様子



写真2 川口先生講演の様子

講演後の質疑応答では、学生・教員から多くの質問が挙がり、活発な意見交換が行われた。「他分野・地域との連携」「専門性を極める」という二つの視点による構成を意図したものであったが、これは学生や教員・産業界メンバーから好評を得られた。また本年度の試みとして、特別講演を当日受付で入場が可能な開放イベントとした。これはフォーラムの認知度の向上を目的としたもので、40余名の参加者を得た。

## 4.2 ポスターセッション

学生ポスターセッションでは、学生らが互いに自身の学位研究についての紹介を行った。昨年の方針を発展させ発表グループを4つに分けることで、学生同士がより多くの発表を互いに観覧できるように設定し、グループ討論前にメンバー間のコミュニケーションを図ることを狙いとした。

大きなトラブルはなかったが、学生アンケートでは質疑応答が長引いて規定時間をオーバーすることや、割り当てられた時間以外にも解説を求められる場合があったことが次回以降の改善点として挙げられた。また、特別講演と同じく登録参加者以外にも観覧可能な開放イベントとしたが、参加学生の指導教員など数名程度の参加者しか得られなかった。ルールの徹底や関心を集められるセッション形式の検討は、今後の課題である。

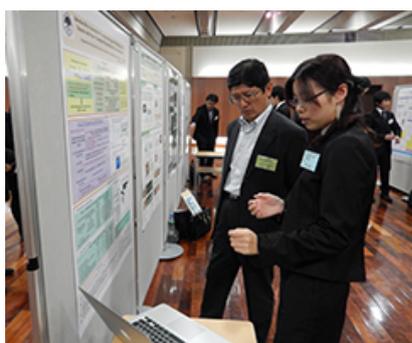


写真3 ポスターセッションの様子



写真4 ポスターセッション会場

セッションでは参加者による優秀発表者の投票を行った。評価項目は「1：ポスターの完成度」「2：発表の技術」「3：興味関心を引く工夫」の3項目とし、得票数の上位2名を最優秀賞・優秀賞、項目3の最多得票者をフォーラム賞とした。集計結果は、第一位が二位と倍以上の票を得てフォーラム賞と重複での受賞となり、三位以下はほぼ横並びであった。学生間で発表技術に大きな差があることを示す興味深い結果となった。また、専門性の高い学会や学術大会でないことを活かして、観覧者の興味関心を引くユニークな発表を奨励する意図でフォーラム賞を設定したが、ノートPCやタブレットを併用しての発表程度に留まった。これは投票の評価項目やレギュレーションの決定が遅れたことが影響していると考えられ、また集計方法にも再考の余地がある。

#### 4.3 グループ討論

ポスターセッション後には、大学教員・産業界アドバイザーを交えた6班でのグループ討論が実施された。昨年度はテーマが抽象的で討論をまとめるのが困難であったという意見があったことから、今年度は“討論の過程で問題意識を共有できること”“具体性のある提案を引き出すこと”を狙いとして「八年後の博士課程を考える」を討論課題として設定した。また討論の意図・目的の事前周知、参考資料の準備、京大幹事学生によるファシリテーションなど、討論を円滑に進めるための試みを行った。



写真5 グループ討論の様子



写真6 全体発表の様子

同じ立場の学生達と意見を交わすことができる場として、討論そのものは概ね好評であり、大学を越えた学生間の交流を持つ機会として非常に効果的であると考えられる。一方、「発表に向けて内容をまとめるのが難しい」「時間が短い」といった意見もみられた。また発表内容は企業・社会と自分達の能力のミスマッチに関する内容が多く、狙っていた「具体的な提案」はあまり見られなかった。こうした点を含め、課題の設定や討論の進め方についてはさらに検討が必要と考える。

#### 4.4 次年度に向けて

学生アンケートでは、「フォーラム後にも集まれる場が欲しい」「より多くの人に参加して欲しい」と言った意見がみられ、学生間の横のつながりを持つことに対する要求が強いことがうかがえる。またフォーラムの認知度が低いことを惜しむ意見は、学生のみでなく参加された教員からも上げられた。早めの情報発信や SNS の利用、ポスターの掲示など、事前周知や広報については幾つかの試みを行ったが、次年度以降に向けてより一層の認知度の向上が求められる。特に、学生が博士課程のどのような点に不満や障害を感じているのか、逆にどこを魅力と捉えて進学を決めたのかを知ることのできる場として、質の高い博士学生を求める教員や大学関係者の方々に活用して頂きたいと考える。

同時にフォーラムの「質」の維持も重要であり、来年度幹事・事務担当者への引き継ぎや、学生のアイデアを引き出し実現させる環境を整えることも必要である。

# 企画・準備作業報告

## 1. 準備作業タイムライン

日付	関係者	内容
<b>平成 24 年度</b>		
10 月	大学事務	研究科長によるフォーラム開催日の承認
11/30	大学事務	宿泊先ホテル予約
<b>平成 25 年度</b>		
5/14	大学事務	各専攻へ幹事学生選出を依頼
6/10	大学事務	幹事学生（10 名）決定
6/13	幹事学生 大学事務	第 1 回ミーティング ・ 幹事代表，副代表選出 ・ 今後のスケジュールの確認
6/24	幹事学生	幹事代表より幹事学生全体に向けて，確認事項一覧（添付資料 1）配付
7/9	幹事学生	幹事学生第 2 回ミーティング ・ フォーラムの大まかな方針について学生間で合意
7/12	幹事学生 大学事務	連合会事務局長とのミーティング ・ 学生提案の方針についての報告 ・ 会場費用など予算関係の打ち合わせ
7/24	幹事学生	幹事学生による全体テーマ案の募集と投票 （添付資料 2）
8/2	幹事学生	UCEE ネットと幹事学生による第 1 回ミーティング ・ 全体的な方針の確認，幹事学生による全体テーマ提案
8/3	幹事学生	フォーラム SNS ページ（Facebook）の立ち上げ <a href="https://www.facebook.com/8daidr">https://www.facebook.com/8daidr</a>
8/21	幹事学生	UCEE ネットと幹事学生による第 2 回ミーティング ・ 関係者の顔合わせとフォーラム方針の確認
8/23	大学事務	学術協力課へフォーラム会場の実施許可申請 フォーラムスケジュール・参加人数概案提出
9/3	大学事務	各大学への参加者推薦依頼（添付資料 3）

9/6	幹事学生	幹事学生第3回ミーティング ・基調テーマの確定 ・特別講演の方針の決定 ・グループ討論の大まかな方針の決定
9/13	大学事務	各大学へのフォーラム開催案内（添付資料4）・タイムスケジュール配付
9/17	幹事学生	グループ討論 討論課題と方針決定
9/24	幹事学生	フォーラム趣旨文（添付資料5）の作成
9/25	幹事学生	幹事学生第4回ミーティング ・特別講演者候補の決定
10/1	幹事学生	UCEE ネット経由により川口淳一郎教授への講演依頼
10/4	幹事学生	幹事学生より芥川一則教授への講演依頼
10/9	大学事務	大学から講演者への講演依頼の送付 各大学からの参加学生の決定・名簿の作成
10/10	幹事学生	幹事学生第5回ミーティング ・フォーラム当日の役割の決定 ・グループ討論進行要領など詳細の調整（添付資料6）
10/11	幹事学生	幹事学生より参加学生への全体連絡（1回目） ・タイムテーブル、趣旨文、開催要領、イベント詳細（添付資料7）の送付
10/16	大学事務	UCEE ネット経由により産業界アドバイザー参加者の確定
10/20	幹事学生	幹事学生より参加学生への全体連絡（2回目） ・パンフレット用自己紹介ページ作成の依頼
10/21	大学事務	八大学連合会事務局へ施設使用料の請求依頼
10/22	大学事務 幹事学生	懇親会会場の予約と内容の打ち合わせ
10/23	大学事務	大学から参加教員・アドバイザーへの参加依頼の送付
10/23	幹事学生	幹事学生より教員・アドバイザーへの全体連絡（1回目） ・タイムテーブル、趣旨文、開催要領、イベント詳細の送付
10/28	大学事務	工学部各専攻長への開催案内通知（添付資料8）
10/30	幹事学生	広報用ポスター完成（添付資料9）

10/31	幹事学生	幹事学生より参加学生への全体連絡（3回目） ・タイムテーブル（最終版）、当日のグループリスト配付 ・ポスタータイトル送信の依頼
11/1	幹事学生	幹事学生第6回ミーティング ・ポスターセッションの詳細決定 ・当日の役割分担 ・リハーサルスケジュールの決定
11/5	大学事務	京都大学工学研究科全体への開催告知、ポスター掲示依頼
11/5	幹事学生	幹事学生より参加学生への全体連絡（4回目） ・構内案内などフォーラム当日の諸注意
11/5	幹事学生	会場リハーサル
11/6	幹事学生	パンフレットなど当日配布資料の印刷・準備
11/7	幹事学生	幹事学生より参加学生への全体連絡（5回目） ・ポスターリスト、グループリスト（修正版）の配付 幹事学生より教員・アドバイザーへの全体連絡（2回目） ・タイムテーブル（最終版）、グループリスト、ポスターリスト配付
<b>フォーラム終了後</b>		
11/11	幹事学生	講演者への御礼と写真の送付
11/13	幹事学生	フォーラム集合写真の送付 参加学生への学生アンケートの協力依頼
12/2	幹事学生	連合会事務局への実施報告書提出
12/5	幹事学生	京都大学大学院工学研究科ウェブサイトへの フォーラム開催報告掲載 <a href="https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/topics/all/kyomu/8uea2013">https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/topics/all/kyomu/8uea2013</a>
12/20	幹事学生	大学事務および連合会事務局へ本報告書提出

## 2. フォーラム企画意図

### 2.1 はじめに

本年度は前年度フォーラム参加者の意見を参考に、フォーラム全体と各イベント内容の再検討や新たな試みを実施した。ここでは、これまで十分に達成されていなかった「フォーラムの継続・発展性の確保」を目的として幹事学生によるフォーラムと各イベントの企画意図や決定までの流れをまとめる。

### 2.2 課題点の整理

はじめにフォーラム全体の問題点として、幹事学生のミーティングや昨年の参加者からの感想（添付資料 10）、前年度フォーラム支援報告書の内容に基づき以下の点をまとめた。

- ・フォーラムとその内容が周知されていない

事前登録制という形式から、参加学生以外にその実態が知られていない。

八大学工学系連合・UCEE ネットについても同様であり、参加学生も実際に参加するまでフォーラムの目的や意義についての認識がハッキリとしていない。

フォーラム開催前の十分な情報伝達と、次年度以降を見越したフォーラム内外でのPRが必要である。

- ・参加学生のモチベーションが低い

参加学生の多くが指導教員からの指示を受けており、自主的な参加は少ない。また、各大学における学生の選出は専攻内で持ち回りの場合もあり、学生は義務的に参加しているという認識が強い。

学生の関心を引くイベントを設け、参加しやすい環境を整えることにより、学生の事前モチベーションの形成が重要と考えられる。また同様に、フォーラム自体の十分な広報も必要である。

- ・メインとなるグループ討論の目的が不明確である

産業界アドバイザーを交えたグループ討論を、就活セミナーのような狙いで行われるものと捉えている学生が多い。また、2日間に渡って討論することの目的が明確でない（討論そのものが目的であるのか、何かに活用できる結論を導くことが目的なのか）。

グループ討論の目的の再設定とそれに適した討論テーマの設定、また討論をスムーズに進めるための資料準備などが効果的と考えられる。

- ・人脈形成としての効果が薄い

フォーラムの目的の一つとして博士学生の交流と人脈の構築が挙げられるが、達成度は低い。原因としては、異なる専門分野の学生が集まるため研究上の交流を持ちにくい、グループ討論では異なる大学の学生と班を組むためその後の交流の機会が無い、全体で自由にコミュニケーションをとる機会が懇親会のみであり打ち解ける時間が不足している、などが挙げられる。フォーラムの開催期間は限定されるため、継続して交流を図ることができる機会と場を提供する必要がある。

これらの課題を念頭におき、「フォーラムの周知」「参加学生のモチベーションの向上」「継続性の確保」を重点目標としてフォーラムの企画を進めた。単年での達成が困難な内容に関しては、本年度で方針を示し今後の発展の足がかりとなることを目指した。

## 2.3 フォーラム全体

今年度の試みとして「一部イベントの開放」「関連情報の十分な伝達」を主軸に進めた。イベントの開放は、事前に各大学から選出された参加者（以下、登録参加者）のみでなく、興味を持つ学部・修士を含む学生や教員（以下、外部参加者）を受け入れることで、フォーラムの知名度の向上を図り、将来的な参加者の拡大とスムーズな学内の協力体制の構築を狙いとしたものである。情報の伝達は、フォーラムの趣旨や意図を事前に周知することで、参加学生の事前モチベーションを高めることを目的とした。特に各大学へ参加学生選出の依頼を行う段階で可能な限り情報を提供することで、正体のわからないフォーラムに参加させられるという意識を軽減できるよう努めた。

また、複数回に渡って連絡をとることで、幹事学生・参加学生間の連帯感を形成し、その後の人脈形成につながることを狙った。

加えて、連合会や UCEE ネット担当者との討議の上で、フォーラムの根本的な目的の再定義を行った。これらについては添付資料 5「フォーラム趣旨文」、添付資料 11「趣旨文補足」を参照されたい。

## 2.4 基調テーマ

基調テーマは「工学博士としての生き方」とした。最終的なテーマの選定理由は、添付資料 11「趣旨文補足」を参照されたい。

テーマの決定までには、まず幹事学生全員が各自テーマ案を提出し、投票によって上位 3 候補を決定した。これを元に UCEE ネット担当者を交えた討議を行い、共通する要素の抽出や各イベントとの関連などを考慮し最終的に確定した。ただし本年度はフォーラム趣旨の取りまとめなど初期の調整が難航したため、テーマの決定後にも特別講演やグループ討論の内容の調整が可能ないように広く捉えられる文言となった。

幹事学生によるテーマ案と提案理由は添付資料 2 にまとめる。

## 2.3 特別講演

特別講演は、最初期に**学生の関心の高い話題を取り扱うこと**を方針として定めた。これは、特別講演が目的や意図が事前に理解されにくいグループ討論などのイベントと異なり、開催案内や告知ポスターなどに記載される講演者の名前や講演タイトルのみで関心を集めることができることから、登録参加者の事前モチベーションの向上や外部参加者に対する集客効果を狙ったものである。また、フォーラムの最初のイベントとして参加学生に好印象を与え、その後の各イベントへのスムーズな移行を促せるよう「**専門的過ぎる内容としない**」「**データの羅列ではなく自身の経験や意見を述べってもらう**」などを条件として考慮した。これらを踏まえて、本年度は「**近年の工学分野における話題性の高いトピック・プロジェクトの関係者に依頼をする**」として企画を進めた。

講演者決定までの流れとしては、まず幹事学生内で関心の高いトピックスを候補としてまとめた。これは、個人ではなくプロジェクト関係者という形で講演者を探すことで、依頼可能な範囲を広げるためである。これに希望する講演の方針を加えて関連分野の教員に相談し、講演依頼が可能な人物を選出した。具体的な講演の依頼は、川口淳一郎教授に対しては教員から、芥川一則教授に対しては面識のある幹事学生から行った。また、フォーラムの趣旨や希望する講演の方針の説明、講演内容の調整などは幹事学生が、講演に対する謝金と交通費に関する調整や大学からの正式な講演依頼状の送付などは大学事務が担当した。

## 2.4 学生ポスターセッション

ポスターセッションは、特別講演と同様に「他分野に向けての研究発表」「ポスター賞の選出」といった要素がフォーラムの目的として理解されやすいことから、事前モチベーションの形成が期待される。本年度は、グループ討論前に学生間のコミュニケーションを図る場としての効果を狙って発表者を4グループに区切り、学生が互いに観覧できるよう設定した。また、他研究室・他大学の博士学生の研究内容に興味を持つ学生や教員が観覧できるように開放イベントとした。

ポスター賞は、フォーラムの意義として学会や学術大会ではないことを示し、ユニークな発想による発表を奨励する意図で、研究内容や質疑応答への対応とは別項目として発表方法自体への評価を投票項目とする特別賞を設定した。

## 2.5 グループ討論

グループ討論は本フォーラムの中心となるイベントであるが、その狙いや目的が明確でないことが問題点として挙げられた。また、前年度フォーラムの参加者の感想として「学生同士の討論自体は有意義であったが、討論課題に意義を見いだせなかった」という意見が見られた。これらを踏まえて、本年度はグループ討論の目的を「学生による情報や意識の共有」「学生から大学や産業界に向けての意見の発信」として、討論課題を設定した。詳しい課題の設定理由や方針は添付資料 11「趣旨文補足」にまとめる。

## 2.6 当日配布パンフレット

当日には、下記の内容をまとめたパンフレットを作成し配布した。

- ・ **スケジュール**
- ・ **会場案内図**
- ・ **会場-最寄駅, バス時刻表**
- ・ **講演者紹介**
- ・ **参加者名簿と班割**
- ・ **参加学生自己紹介**
- ・ **周辺飲食店案内**

学生による自己紹介は事前に全員に記入フォームを配布し、作成を依頼した。

記入フォームは添付資料 12 にまとめる。

## 2.7 ウェブサイトを利用した情報公開

SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)である Facebook を用いて公式ウェブページを立ち上げ、関連情報の発信とフォーラム前後の学生の交流を図った。これは、近年に学術大会や企業セミナーが積極的に活用をはじめているもので、広く情報が発信されるためイベントの周知に効果的であるが、個人の特定できる写真の掲載など情報の公開について十分な注意が必要である。

また、大学や八大学工学系連合会のウェブサイト上に実施報告や過去の開催実績などの情報をまとめることで、参加学生がフォーラムの内容を把握できる環境を整えることを目指した。ウェブ検索の上位に公的な組織によってまとめられた情報が現れることは、イベントに対する信頼感を高める効果が期待できる。また、大学など教育機関からから支援を受けていること、過去に十分な成果を上げていることを認識させることで、幹事学生・参加学生のモチベーションにもつながる。戦略的なウェブサイトの利用は本年度からの試みでありまだ明確な成果は発揮されていないが、継続的な運用によって内容の充実とそれに伴う効果の拡大が期待される。

### 3. 学生アンケート結果

次年度以降のフォーラム企画の参考として、参加学生に対して実施したアンケートの結果をまとめる。アンケートは、フォーラム終了後に幹事学生以外の全参加学生に対して下記の内容を添付ファイルとしてメールにて配布し、返送されたファイルを第三者がまとめることで無記名による回答とした。本報告書作成時点での有効回答は 11 件であった。

回答の内容は、明らかな誤字脱字を除き、原文ママ記載する。

#### 学生アンケート実施内容

皆様お疲れ様です。フォーラムへのご参加、まことにありがとうございました。

本年度のフォーラムについて、以下のアンケートにご協力ください。

来年以降の幹事学生にとって非常に参考となりますので、忌憚無い意見をお願いします。

設問 1：全体を通して特に良かったと思う点があれば挙げてください。

設問 2：来年以降に改善した方が良いと考える点があれば挙げてください。

設問 3：来年のフォーラム全体テーマ、討論課題として思いつくものがあれば挙げてください。(キーワードなどでも可)

設問 4：その他、フォーラムや連合会について意見やアイデアがあれば自由に記述ください。

ご協力ありがとうございました。

**設問 1：全体を通して特に良かったと思う点があれば挙げてください。**

回答者 A	<p>博士学位の取得について考えるよい機会になりました。博士課程中は研究進捗だけでなく、何かを身につけなければならないというぼんやりとした意識はあったものの、それが何かという明確な答えはありませんでした。今回のディスカッションを通して、在籍中に学位に見合うものを取得することが博士になるのでは、と考えるヒントを得られました。</p> <p>あと、基調講演は大変面白かったです。</p>
回答者 B	<p>基調講演，ポスター発表，グループ討論のいずれも有意義な場であった。</p>
回答者 C	<p>プログラムの内容がよく練られていた。講演，ポスター発表，討論という内容のバランスがよくとられていた。</p>
回答者 D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・討論グループのメンバー構成（大学、専門が完全にばらばらだった点）</li> <li>・フォーラム全体のにぎやかな雰囲気と参加者同士の親和のしやすさ</li> <li>・各発表に対する予定時間を超える位の質問数の多さと参加者の積極性</li> </ul>
回答者 E	<p>講師の方。今まで参加した行事の講演といえば開催大学の先生であったり、地域の役所の研究の方であったりと、正直なところ有り難みがなかった。しかし、今回の（昨年までのを知らませんが）フォーラムはそれに縛られないで、非常に面白かったです。</p>
回答者 F	<p>アドバイザーとしていらっしゃった方々から参考になるご意見を多数いただけてよかった。とくに講演もしてくださった芥川先生は、本当によく学生のことを考えた教育をされている方だと感じた。</p>

回答者 G	講演、ポスター発表、グループ討論など内容が充実していて良かったです。また、当日の資料に参加者のプロフィールを載せていたのも交流を深める上で役立ちました。
回答者 H	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八大学の博士後期課程の学生と共同作業ができた点</li> <li>・社会（企業・大学）が博士後期課程の学生に求める力を把握することができた点</li> <li>・一つのテーマに対して半日×2日間、じっくり議論できたという点</li> <li>・特別講演の方々のお話</li> <li>・ホテルの快適さ</li> <li>・経済的な補助</li> <li>・同じ博士学生の研究内容・悩み・考えを知ることができたこと</li> <li>・京都に行けたこと</li> <li>・他大の先生・学生、企業の方と適度な人数で意見交換ができたこと</li> </ul>
回答者 I	<p>芥川先生と川口先生、共に記憶に残る素晴らしいご講演をしていただいたこと。</p> <p>グループ討論が期待以上に白熱したものになったこと。</p>
回答者 J	<p>ポスター発表で、発表を4グループに分けたのは良かったです。おかげ様で、いろいろな人と話すことができました。</p> <p>他大学の博士学生だけでなく、他大学で働いている方、企業の方の生の声が聞ける場は貴重で大変参考になる意見が聞けました。</p>
回答者 K	<p>他大学の博士学生だけでなく、他大学で働いている方、企業の方の生の声が聞ける場は貴重で大変参考になる意見が聞けました。</p>

**設問 2： 来年以降に改善した方が良くと考える点があれば挙げてください。**

回答者 A	<p>グループディスカッションでは、他大学の方と仲良くなれました。議論の收拾という面も考えなければなりません、違うグループでのディスカッションも時間的に余裕があれば。</p>
回答者 B	<p>ポスター発表に関して、部屋の広さの割にポスターの間隔が狭かった。ポスター同士の間隔をもう少しあけてもよいのではと思った。今回、ポスターセッションにおいて4つに分かれていたので、各回一人一分程度自分の研究をプレゼンする時間を設けてもよいのではと思った。</p> <p>グループ討論に関しては、テーマが漠然としたため最初の討論の取り掛かりが難しかった。テーマをグループごとに与えてもよいかと思った。アクセスがもう少しよいキャンパスでフォーラムを行っていただけるとよいと思った。</p>
回答者 C	<p>2日間という制約上、難しいのは承知しているが、今回の討論テーマの場合には、もう少し議論の時間が欲しかった。</p>
回答者 D	<p>荷物が多いため、会場—ホテル間の交通アクセスがもう少し良いと助かる</p>
回答者 E	<p>地域特有のものかもしれませんが、宿泊先から会場までが遠い。あと、フォーラムから得られる最大の効用は、フォーラムの時間そのものというよりも、参加者と親睦を深め、認識を共有することにあると思う。参加した企業の方や先生と2次会には行ったが、次の日を考えると長く話してはいただけなかった。2日目を昼までに終わるのならば、思い切って、昼食を各自済ませ11時からや11時半から夕方までにしたらどうだろうか。(2日目に観光ができなくなるという意見はさておき)</p>

回答者 F	二日目が終わったあとに、簡単な昼食会のようなものがあつたら良かったように思う。全体討論の感想を言い合うような場があつた方が良かった気がする。
回答者 G	当日の資料に、メモがとれるスペースがあると便利だと思いました。講演、グループ討論のそれぞれの資料の後に白紙1枚でいいので、入れてほしいです。
回答者 H	時間的な拘束は、今回と同じ2日以内が良いと思います。うち1日は土日・祝日にかぶっていた方がありがたい。
回答者 I	ポスターセッションにて、割当の時間が過ぎても質疑が終わらないことや、新たに聴衆が加わることによって、時間をオーバーして発表している光景がいくつか見受けられました。その結果、発表順によって人気投票の得票数に差がついた可能性があります。せっかくのポスター賞に、このようなことでケチがついては勿体ないですし、発表の区切り方については改善の余地があると思います。
回答者 J	<p>グループディスカッションの前に、メンバーと話す機会があつた方がいいように思いました。少し話して、お互いのキャラクターを少し知っておけば、スムーズにグループディスカッションを始められると思います。ポスター発表の時では、まだお互いに顔が分からないので、メンバーを意識して話すのは難しいです。</p> <p>ポスター発表と懇親会を同じ会場とするのはどうでしょうか？今回は会場が飲食禁止だったのかもしれませんが...</p>
回答者 K	遠方から来る方もおられるので、開始時間などのタイムスケジュールにもう少し余裕を持たせたほうがいいのかと思います。

**設問 3: 来年のフォーラム全体テーマ、討論課題として思いつくものがあれば挙げてください。(キーワードなどでも可)**

回答者 A	<p>博士学位 is not (only) 専門知識 but (also) ...</p> <p>博士の充足率 (楽しいけれど、何か足りない?)</p> <p>海外の博士、日本の博士 (何が秀でてて、何が劣っているか)</p>
回答者 B	(無回答)
回答者 C	<p>特になし。但し、今回程度の時間内で討論を行うのであれば、テーマは最初からもう少し絞って指定するのも良いのではないかと思う。漠然としたテーマで議論するのは有用で面白かったが、議論が発散しがちであったと感じる。</p>
回答者 D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会問題解決／大規模プロジェクト遂行に向けた博士課程研究としてできることとその(社会的・学術的)立ち位置</li> <li>・博士課程学生が取り組むべき教育活動・社会奉仕</li> <li>・鬱や行方不明となる学生がなぜ生じるのか、またその数を減らす方法(例: 対外活動を積極的に行う博士課程学生とそうでない博士課程学生の違い)</li> </ul>
回答者 E	<p>今回フォーラムに参加した結果、得られた認識はあったが、来年新しく参加する方はその認識がありません。なので、特に新しいテーマが思いつきません。申し訳ありません。ただ、工学系としての「倫理」はキーワードとして思いつきました。JRの問題やデータの改竄問題等があったものですから。</p>
回答者 F	<p>博士や修士への進学について。特に文科省が単純に進学率や留年率といった数字でしか評価していないことをどう考えるか。</p>

回答者 G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論文数と論文の質</li> <li>・学位に見合う博士になるには</li> <li>・大学の先生に管理職研修は必要か</li> </ul>
回答者 H	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博士号取得後</li> <li>・社会が博士後期課程の学生に求めること</li> <li>・東京オリンピックに向けて</li> <li>・10年後</li> <li>・進路</li> <li>・日本の博士の良い点、改善点</li> </ul>
回答者 I	8 大学は日本の教育・研究機関の中でどのような役割を担うべきか
回答者 J	<p>「工学博士の社会との関わり方」  (大学・企業、研究職・その他の職。社会をより良くするために科学研究の高等教育を受けたものとして、社会とどのように関わっていくべきか?)</p>
回答者 K	学部、修士の学生から見た博士学生のイメージ

設問 4: その他、フォーラムや連合会について意見やアイデアがあれば自由に記述ください。

回答者 A	<p>可能ならば参加人数を増やす。とはいえ、学内で募集をかけても恐らく集まらない。学内での博士交流を踏まえて八大学にすれば、議論としては一つ上のレベルで行えるのではないのでしょうか。</p>
回答者 B	<p>会全体を通して、非常に有意義な時間を過ごすことができたと思った。</p>
回答者 C	<p>何よりもまず、幹事の方々お疲れ様でした。もう少しフォーラムや連合会自体の学生間での知名度が上がることを期待しております。</p>
回答者 D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本フォーラムを含めた「博士」の価値・存在を認知させるための広報活動（関係者及び対外者向け両方）</li> <li>・本フォーラムでの提案が実際の解決策として採用されたときの事後報告</li> <li>・（本フォーラム及び連合会に限った話ではないが）各大学に所属する博士学生全員に様々な情報提供するためのメーリングリスト作成・利用</li> </ul>
回答者 E	<p>facebook のページを作成したのは良いことだと思いました。しかし、フォーラムに参加するまでは、facebook ページに参加するのに抵抗があったのも事実です。（悪い表現をすれば、大半の学生は大学から参加するように言われ「得体のしれない」フォーラムに参加「させられる」という状況だったので。もちろん、参加してからの認識は違います。）終わってから、facebook ページを再周知すると良いかもしれません。もしくは、参加者の写真を facebook で基本公開とし、希望者にのみメールで送信、というのも手かもしれません。</p>
回答者 F	<p>グループ討論の部屋(22)はもう少し狭くても良かったと思う。狭いほうが互いに議論に集中できる気がする。</p>

回答者 G	(無回答)
回答者 H	研究紹介ポスター、特別講演、グループ討論と発表の軸は、とても学びの多いものだと思うので、来年以降も継続した方が良いと思いました。
回答者 I	特にありません
回答者 J	(無回答)
回答者 K	(無回答)

## 4. 幹事学生感想・提案

### 幹事学生 1

#### ・企画や運営に関する感想・反省など

全体テーマ・グループ討論の内容検討に長時間を費やしたが、最終的なフォーラムのアウトプットから判断すると、検討した内容が十分に生きていないと感じた。フォーラム当日の限られた時間では、テーマに沿ったグループ討論を行い、発表としてアウトプットすることは非常に難しかった。

個人的には、全体テーマ・グループ討論の内容検討の中で、幹事学生の方やサポートして下さった UCEE・連合会の方と議論できたことが有意義で楽しいものだった。

全体テーマ・グループ討論テーマの策定後、それに沿って講演を依頼できる人を探すというのが理想的だが、

- (1) 講演を依頼することになる人はたいてい数ヶ月単位で予定が埋まっている。
- (2) 全体テーマ・グループ討論テーマの決定に時間がかかる

以上のことから基調講演と形にこだわらず、全体から切り離して特別講演という形で早め早めに依頼するほうがよいと感じた。

#### ・フォーラム自体の感想・反省など

上の項目で述べたとおり、フォーラム当日の限られた時間ではテーマに沿ったグループ討論を行い、その結果をアウトプットすることは非常に難しかった。

フォーラムのイベントの中で「討論結果の発表」に向けて何かまとめあげないといけないと思いながらプレッシャーを感じてスライド作成している時間以外は(時間が限られているのでどうしてもそういうプレッシャーがあります)、自由な雰囲気の中で意見が交換でき、刺激を受けることができた。

ポスターセッションは、いろんな人の発表形式を幅広く見られたのでそれだけでも勉強となった。これだけ多岐にわたる研究分野の発表をコンパクトに見られる場はあまりないため、有意義と感じた。

#### ・次回以降に向けての提案など

グループ討論とアウトプットの仕方は上で述べた通り変えていった方がよいように思う。

## 幹事学生 2

### ・企画や運営に関する感想・反省など

幹事学生内で作業量が大きく偏ってしまったため、周りをもっと積極的に仕事を奪っていけるとよかった。準備の早い段階で、イベントごとに担当者を決めてしまえばよかったかもしれない。

週1や隔週で集まって、その担当者からの仕事の割り振りや進捗状況を共有し、代表者が対外交渉やタイムスケジュールの管理など全体に関わる仕事だけ、という形式。

### ・フォーラム自体の感想・反省など

グループ討論については、学生・アドバイザーともに活発に議論ができ、有意義だった。ただ、もう少し具体的なテーマがあっても良かったのではという意見も聞かれた。この点について個人的には、テーマ出しの部分で各参加者が自由に意見を交わしていたので良かったと考えるが、討論時間のコントロールもしつつ上手く収束させることができなかつたのは反省点である。これが影響して発表資料の作成にはほとんど時間を残せなかつた。(事前に模擬グループ討論をやっておくと良かったかもしれない)

ポスターセッションはよい刺激になったが、やはり時間不足だった。ポスター賞受賞者の発表を改めて見る機会があると嬉しかった。

### ・次回以降に向けての提案など

北海道での開催はほぼ全校が前日入りになると思われるので、初日は朝から始められ、ポスター発表などに取れる時間が増えるかもしれない。

### 幹事学生 3

#### ・企画や運営に関する感想・反省など

反省点としては、昨年度参加経験ある幹事代表に負担が集中しすぎてしまった。

感想としては、運営の初期にはフォーラムの意義や方向性が不透明であると感じた。また、統一テーマやグループディスカッションテーマ、基調講演者決定までにかかる負担が特に大きかったように思う。

#### ・フォーラム自体の感想・反省など

スケジュール上仕方なかった点もあるが、やはりポスターセッションの時間が短かったと感じた。反省点としては、もう少しグループディスカッションに対する準備をしておくべきであったと思う。

#### ・次回以降に向けての提案など

幹事を募集制にし、希望者らによって企画運営を行えるようにする必要があると思う。そのために、今回も含めこれまでのフォーラムの経緯や意義などを提示し、ある程度の方向性を示すことで、早い時期に幹事校で工学系全体に対し募集をかけられるようにする必要がある。また、参加学生も希望者によるものにするためにも早い時期に参加校工学系全体に募集をかけられるようにするべきと考える。

## 幹事学生 4

### ・企画や運営に関する感想・反省など

最初になにをせねばならないかと言う事が判然とせず、指針の決定がなされないまま時間を浪費してしまったように思う。次回以降、特に全体のタイトルや講演者の人選等、明確な締切を定めて臨むべきではないだろうか、と考える。「いつごろまでには決まっていた方がいい」ではなく「何時までに決めろ」と言われた方が踏ん切りも付きやすい。

### ・フォーラム自体の感想・反省など

グループディスカッションの困難さがあげられる。もっと具体的なテーゼを最初に示すべきではないか。抽象的な議論は高尚にもなりうるが、同時に議事進行役の技量が不足すればタダの雑談に終始しかねない。現に私の能力不足故か、雑談の様な話題を途中でできる事が出来ない場面が多々見受けられた。

### ・次回以降に向けての提案など

上に記したとおり、期日の目安を先に与えるべき、と言う事があげられる。むしろ、それ以外には干渉すべきではなく、北大の自主性に任せた方が良いのかもしれない。

また、グループディスカッションの時間の長さが中途半端に感じられた。より短くするか、あるいは思い切って丸一日使うくらいの気持ちの方が良いのかもしれない。

## 幹事学生 5

### ・企画や運営に関する感想・反省など

昨年度参加者が一名しか居なかったため、他のメンバーがどう動いて良いかの判断が難しく、全体の方向性がなかなか見えなかった。ただ、その分いろいろと考えることになったのは良いことかもしれない。

私がおもてなししたこともあり、もう少し連絡のとりやすい環境があれば良かった。また、タイトルなどで動き出す前に委員の方々と顔合わせは効果的であった。お陰でこのフォーラムを何のために開いているのかということが理解でき、方向性のヒントが見えた。

### ・フォーラム自体の感想・反省など

おおむねトラブルもなく、それぞれのチームが発表できたという点では満足である。難しいとは思いますが、あまり一般参加者を招けなかったのと議論がうまくまとまるよう誘導できなかったのが心残りである。

### ・次回以降に向けての提案など

フォーラム終了後にグループ発表についてなど雑談する時間を作ることができたら、その後のつながりが深くなると思う。また幹事学生同士など経験者のつながりをきちんと組織化できると良い。

## 幹事学生 6

### ・企画や運営に関する感想・反省など

#### 1) 企画・準備について

企画が走り始めた8~9月は、テーマ設定・基調講演・スケジュール等の決定事項が多かった割に、きちんと“決定”に繋げられるまでに時間がかかってしまったことが悔やまれる。そのため、結果的に事務担当者や幹事代表が多く動くことになってしまった。

(補足)ただ、アドバイザー選定/UCEE NETとのやり取り、趣意文など、まとめて主導していただけたのは円滑に準備を進める上で有難い部分だった。また、顔合わせや決起集会は、非常に有意義だったと思う。ブラッシュアップにも重要であり、何より互いに知り合うのがそれ以降のやり取りで必須である。

#### 2) 取り決めの進め方について

会合によって参加者がまちまちなのは仕方がないとは言え、互いの了解がどこまで取れているのか分かりにくいのが議論を進めにくい一因だと感じる。メールにしても、さらっと読むだけになりがちなので、ちゃんとした意思決定につなげるには難しい。メールの場合さらに、まとめ役と他の幹事学生との“1往復”に留まるので、一方向に感じる。

#### 3) 当日の運営

当日については、ある程度役割を振れたため、進行や運営の面では問題なかったと考えている。しかし、上記のことを踏まえると、反省点は多い。

### ・フォーラム自体の感想・反省など

これまでグループ討論のような議論経験がなかったが、“時間を区切って”“結論を出す”ことは非常に難しく、また日常の研究生活においても、さらには自分で考える際にも、この2点は重要でかつ関わりが深いものだと感じた。幹事での会合でもそうだったが、最終的な何かを見据えた上で必要な材料を集めるという意味では、こういう一般的な討論でも、会社の会議でも、研究の進め方でも全く同じだという“気付き”が今回の一番の収穫だったと考える。

基調講演に関しては両先生ともに興味深いものだった。特に芥川先生のお話で、“復興”と“復旧”の区別に関してや、復旧のための了解を取るプロセスについての話題があったが、前者に関しては議論を進めるための抽象→具体化に、後者に関しては丁度“グループ討論”と関わるものだな、と改めて思う。

## ・次回以降に向けての提案など

### 1) フォーラム自体

1., 2.項を踏まえると、フォーラム自体は来年度以降も続ける意味は十分にある。ただし、何点か補足をする、まず企画段階で決起集会などでも話題に上がっていた“その後”については、正直難しいように感じる。Facebookにしても、参加者がまず少ないため幹事側だけで持ち上げるに留まってしまったことが悔やまれるし、担当者が忙しい中更新してくださっていたが別途担当者を設けた方がもう少し柔軟に対応できたように感じる。他の参加者の話を聞くに、博士学生フォーラムというものが各学校内でまずあるということをここで初めて知ったのだが、これがある意味“解”ではないか、とも感じる。(私の所属する応用物理学会でも Students Chapter という制度がちょくちょく導入され、まず各大学で所属学会の学生の集まりやイベントみたいなことが企画されているらしい。博士学生フォーラム企画時には当初この話を念頭に置いていた.)

### 2) 幹事校に向けて

どうすべきと考えず、どうしたいという解を自分で見つけられるいい機会ではないだろうか。考える事ってなんだろう、ということがフォーラムを終えたあと、少し分かるかもしれない。

### 3) 提案

パネルディスカッションの実施。テレビやシンポジウムではおなじみの議論形式。グループ討論よりも、事前準備が必要な面では手間が要るが、逆に今年企画時に話していた事前に何かしてもらおう、という内容の一案となるのではないだろうか。問題点としては、現段階ですでに時間がかつつという点か。

## 幹事代表

### ・企画や運営に関する感想・反省など

#### 1) 幹事学生の選出ととりまとめ

大学内においてフォーラム参加学生の選出が持ち回りとなっていたため、前年度参加者が私一人となり「フォーラムの継続性」という点に強く課題を残す状態から始まった。これまで適切に情報が整理されていなかったこともあって未参加者がフォーラムの趣旨や全容を把握することが困難なため、結果として私が全体を取り仕切ることになり、他の幹事学生の感想にあるように作業量に大きく偏りが生じてしまった。

本年度は私自身に「フォーラムの基盤を整えなおしたい」という意識があり、全体に一貫性を持たせるべく意図的に作業を集約させた面があり、これが上手く作用した部分も多い。しかし、フォーラムの役割のひとつとして「**学生に企画・運営の経験を積ませる**」という効果を考えるならば、次回以降は幹事全体で適切に役割分担ができるよう進めるべきである。本年度の幹事学生は10名が選出されたが、他キャンパスの学生や出張の多い学生も含まれており、全体で集まって意見を交わす機会を作ることが困難であった。初期にはメールベースでの意見交換を基本として行ったが、「提案」→「承諾」→「決定」のプロセスに時間を要し十分な議論もできないため、最終的には都合の合う数名でミーティングを行い、事後承諾を得て進める場合が多くなってしまった。作業効率の向上を考えるならば、**企画を行うスタッフは2〜3名程度とし、全体の方針が決まった後に十分な人数の運営スタッフを加える**という形式が良いと考える。

また本年度フォーラムの成功には、大学事務担当者による支援の貢献も大きい。予算や関係書類の申請などの学生が対応できない部分について、事務担当者との役割分担と十分な情報交換は極めて重要である。

#### 2) 各イベントに関して

本年度は、全体としては例年の内容を踏襲しつつ進めることを最初期に決定し、各イベントの目的や役割の再定義と、準備に時間のかからないいくつかの試みを加えるにとどめた。これは、先に述べたように「**基盤を整え直すこと**」に重点を置き、また来年以降に繋がるように「**失敗しないこと**」を重視したためである。

企画の取りかかりとして、全体でフォーラムについての方針を統一する目的も兼ねて全体テーマの決定から行った。しかし、学生間でフォーラムに対する意識や目的などが共有されていない段階で進めてしまったため、効果的な議論ができたとは言えない。また、初期には全体テーマと関連させて特別講演者やグループ討論課題の決定を行う予定で進めていたため、これが制約となって全体の作業が遅れることになってしまった。最終的には、他の作業にかかる時間が確保できないとの判断から、どんな内容でも対応できるような抽象的なテーマとなり、やや不満の残る形となった。ただし、これを受けて基調テーマ・特別講演・討論課題を、それぞれの目的・役割に合わせ独立させて考えるという判断がなされ、結果として良い形にまとめることができたと考えられる。

**特別講演は、特に話題性のある方への依頼を考えるならば、早期に動く必要がある。**学生がテーマに沿った講演者を見つけ、連絡を取ることはなかなか難しいが、教員やUCEE ネットなどの支援を受けつつ可能な限り自分達で対応することが望ましいと考える。本年度の講演者である芥川一則教授は、私の過去の面識を頼って直接の依頼を行ったが、その後の調整も含めて親交を深める大変良い機会となった。人脈の形成という面に加え、学生では得る機会が難しい対外的なやり取りや調整の仕方を学ぶ場としても極めて効果的である。

ポスターセッションは、ポスター賞によるモチベーションの向上や関連する研究室の学生・教員への呼びかけとしての効果を発揮できるよう、さらに丁寧な企画と準備を行うべきである。

グループ討論は、フォーラムのメインのイベントながら、その目的や効果が明確にしづらく、初期から「具体性のある課題を設定する」という目標のみは定まっていたものの、方針の決定に時間を要した。最終的な方針については、2章の企画意図や添付資料に譲るが、決定までにはグループ討論というイベント自体の変更も含め多くの意見が出た。

本年度は、フォーラムの周知の意図もあり、広く情報発信を行うことを心がけた。参加者にもフォーラムの趣旨や意図が伝わるよう早めの伝達と繰り返しの連絡を行ったが、情報過多となり逆に大事な連絡が見逃されてしまう場合もあった。発信する情報の整理と確実な連絡手段については、検討の余地があると考えられる。

## ・フォーラム自体の感想・反省など

一部適切な役割分担ができておらず混乱した場面があったが、全体としては良い評価が得られたと考えている。広くきれいな施設であったことが、学生達のモチベーションや好印象に繋がったという印象があり、会場の選定は重要と考える。

学生アンケートを見ると、特別講演は大変好評であり、フォーラム自体も博士学生が集まる場として高評価である。一方、ポスターセッションやグループ討論については改善を希望する声も多い。

ポスターの展示の仕方や交代時間の厳守については、幹事側の事前の準備・検討不足である。ポスターセッション前の口頭発表は、今回は時間の都合からポスターリストを配布するという形とした。自己紹介の場として希望する意見もあるため、スケジュールとの兼ね合いを考え、可能であれば実施するのが望ましいようだ。

グループ討論については、やはりテーマがまとめづらい、時間が足りないという意見が多い。小テーマについては、今回は「学生達の見解の中から選び出す」という方針を取ったためグループ別の設定はしなかったが、幹事学生が十分に舵取りをできなかったこともあり、狙いを達成できなかった。課題の設定や討論・発表の形式についてはさらに検討の余地がある。幹事学生で事前に模擬討論を行ってみるのも良いかもしれない。また、留学生が討論に参加できなかったという意見もあった。メールのやりとりなどで日本語でのコミュニケーション能力を把握しておく必要がある。

全体として「もっと時間があれば良かった」という意見が多く、参加学生達が良い時間を過ごせたことがうかがえる。ただし、これは経験したからこそその意見であり、参加前の段階では長時間拘束されることでモチベーションが低下する可能性も高く、見極めが重要であると考え。フォーラム終了後の朝食会や観光案内などもアイデアとしては挙げられたが、フォーラム前の段階では興味を持つ学生が少ないだろうとの判断で見送られた。多くの学生が意見として挙げているが、フォーラムの知名度の向上と「価値」が認知されることが最優先であると考え。

## ・次回以降に向けての提案など

フォーラムの認知度が低い現状では、参加者（学生・教員ともに）の多くが、事前のモチベーションはマイナスである、と捉えておくべきである。フォーラムの趣旨や目的、幹事学生的心情などを伝えていくことは重要であるが、自己啓発的・宗教的な受け取られ方をしないよう注意が必要であると考え。自分達が事情を知らない参加学生である場合に、欲しい情報は何か、興味を持つ内容は何か、悪印象になる要素は何かを考慮し企画を進めるべきである。全国の博士学生が集まり、意見を交換する機会を得られるというだけでも十分な意義があるため、その価値を減じてしまう要素を排除していくことを徹底すると良いと考えている。

グループ討論についての対策のひとつとして、発表の形式を指定（例えば本年度の課題であれば「3年間のカリキュラムを立ててもらおう」など）すると、討論がまとまりやすくなり、また「学生による提案」として外部に発信しやすくなるだろうと考える。特別講演者に関しては、他のフォーラムやセミナー、学会などで発表に関心を持った講師の方をリストアップし、学生間で共有しておくとも良いかもしれない。

また、今回は実現できなかったが、博士学生向けのキャリア支援や進学相談などを行っている部署に参加してもらったことで、学内での認知向上や修士学生の参加につながれると考える。学生がどこに障害を感じて進学をためらうのか、逆に何に魅力を感じて進学を決めたのかを知る機会として大学にも有効に活用してもらえよう、フォーラムが発展することを期待する。

最後に、次年度以降のテーマ案として下記にキーワードを挙げる。

「日本人博士の可能性」

「なぜ我々は修士までで我慢できなかったのか」

「博士学生の結婚問題」

# 添付資料

## 8 大学博士課程学生フォーラムについて決定すべきこと

頂いた資料などを参考に、今後学生幹事を中心に決定すべき方針や内容についてまとめます。また昨年度のフォーラムに参加した上での印象や意見についても記述します。

### 決定すべき事項一覧

#### ①昨年、または例年通りの内容で実施するか？

最優先で決定すべき事項と考えています。ここ数年の資料を参照しましたが、フォーラムの内容は以下のとおりで細かい時間調整以外に変更はありません。

一日目：特別講演→グループ討論→ポスターセッション→懇親会

二日目：グループ討論（まとめ）→発表→総括講演

この通りに実施するのであれば、日程・会場・宿泊場所を既に手配してくださっているため、幹事側の仕事にはそれ程手間はかからないかと思えます。

個人的には、小規模でも何か新しいイベントを加えてみるのも良いのではないかと考えています。これについては、後述の**昨年の感想①**にまとめます。当然、準備の手間が増えますので皆様の意見をうかがった上で考えたいと思います。

#### ②フォーラムのテーマ

特別講演やグループ討論のテーマの決定。

討論の会話のきっかけや参考になるので、両者は関連したものが良いと思います。

これに合わせて産業界からの講演者やアドバイザーを選定しますが、希望が通らない可能性も高いですので、候補は複数挙げておくべきだろうと考えます。

#### ③グループ討論・発表の形式

実質フォーラムのメインイベントとなります。

フォーラム全体のテーマを大テーマとした上で、各グループのテーマ設定、メンバーの割り振り、時間配分や準備する道具、発表形式で行うのかを検討する必要があります。

昨年度の様子や感想を**昨年の感想②**にまとめます。

#### ④ポスターセッションの形式

昨年度のポスターセッションでは、学生を含む参加者の投票により優秀発表者を決定しました。今年もこのような形式で行うのか、その場合はどのような発表・投票形式にするのかを考える必要があります。

昨年度は会場の都合もあり、2グループで入れ替わりに展示発表を行いました。結果として、学生同士での討論の機会も得られて良い形になったように思います。

今年度は会場が大きさが十分あるようですが、展示をどうするか、どのような採点基準を設けて投票を行うかを考える必要があります。

#### ⑤名簿・冊子の作成

フォーラム参加者に配る冊子の内容を決定します。

内容としては、フォーラムの概略、特別講演のアブストラクト、参加者の名簿などです。

挨拶やフォーラムの意義について、どなたかに執筆依頼をするのかなどをなるべく早くに決定する必要があるかと思えます。また昨年度は参加学生の名簿に、名前や研究概略の他、出身や趣味といった簡単な自己紹介も加えて、コミュニケーションのきっかけとなるように構成されていました。巻末には周辺の飲食店マップやクーポンなども添付されていました。

この他、懇親会の内容（優秀発表者の発表などもここで行います）や会場・ホテルの移動などについても考える必要があるかと思えますが、優先順位は低いので省きます。

### 昨年の感想①：フォーラム全体に関して

昨年度の特別講演の内容は、産官学の連携を含んだ博士課程学生の社会的意味合いといった話題が中心になり、興味深い内容ではありましたが、既に博士後期課程に進学した学生に聞かされても仕方ないというのも正直な感想でした。

こうした内容であるなら、博士後期学生のみという閉じたイベントにせず、**博士後期課程への進学を考えている修士学生達も参加**できるような形式にした方が効果的であるように感じました。今回は会場も大きいので、日中は会場をオープンにしておき、特別講演を修士学生も聴講できるようにする、ポスター展示を見て回れるようにする、などの方針をとってみるのも面白いのではないかと考えています。

### 昨年の感想②：グループ討論に関して

昨年度は、前回の資料にあるように4つのテーマに分かれて討論を行いました。

班分けは、事前に参加者に希望のテーマを出してもらい、4～5人程度のグループに分配されました。また各グループに3人ほどの産業界からのアドバイザーが付きます。ポストイット、各種マーカー、模造紙、ホワイトボードが配布され、これを自由に使って討論を進めます。発表は1グループ5分程度で、パワーポイントを利用する、意見をまとめた模造紙やホワイトボードを使うなど形式は自由となっていました。

ある程度円滑に討論が進むように、**各グループに京大の幹事学生が一人ずつ配分されるように調整**した方が良いかと考えています。

以上、雑然とではありますが、昨年度の経験も踏まえて決定事項などをまとめさせて頂きました。これを参考にして、ある程度各自でフォーラムのイメージをつかんで頂き、次回の話し合いで方針を決定できればと考えております。

## 添付資料 2：幹事学生による全体テーマ案

### 1：産業界が博士に期待すること

- ・博士課程学生（進学を考えている学生）が知りたい、また、知っておくべきことだと思うから
- ・今後の日本の工学の発展の面からも博士と産業界の歩み寄りというのは一つ重要な点だと思うから

### 2：科学と政治

人材の養成は特に日本のような国が成長するには重要だと思いますが、それに対して博士課程学生の経済支援などは先進国に比べ粗末なものです。（給料をもらって働くのが普通の諸外国に対し、逆に大学に授業料を払っているなど）

科学や科学者をとりまくこのような環境について、今回は政治をキーワードに議論することを提案します。科学に関連する政策についてどういう判断がなされているのか、どんな意見があるのかに注目し、それらを知り議論することは有益ではないかと思えます。

そもそも日本人は政治への関心が低いように言われますが、少なくとも私たち科学者（の卵）は、もう少し積極的に政治に関わる必要があるのではないのでしょうか。

### 3：サイエンスコミュニケーション

科学者でない人に科学を知ってもらうこと、楽しんでもらうことの重要性は、皆さんの意見の一致するところだと思います。震災の際にはリスク、あるいは「リスクをとる」という考え方そのものを説明してこなかったツケが科学に対する不信として顕れました。

徐々に認識されてきたサイエンスコミュニケーションという言葉がキーワードに、どのような形でそれがなされているのか、なされるべきかなどを議論してはどうでしょう。

小テーマとしては、それ（一般市民と科学者の橋渡し）を誰がするのか？私たち科学者は説明責任を負っているとはいえ、PhD をとるような人材がそれを担うことは果たして求められているのか。など色々あると思えます。

### 4：日本の博士の将来像に関して

（提案理由の解説無し）

## **5 : これからの工業と博士に求められるもの**

(提案理由の解説無し)

## **6 : 博士という生き方**

理由としては、ミーティングでも意見がありました。が、修士も参加するのであれば、博士の意義等は興味がある内容であると思いますし、個人的には現在博士課程にいる学生の考えなども興味のある所です。

また工学でも、研究が基礎寄り応用寄りといった違いもあると思いますし(分野によっては理学や農学、医学等と重なる研究もあるので)、工学以外の博士と比較した議論もよいかもかもしれません。

## **7 : 博士(工学)に求められていること**

前回の打合せで、これまでのテーマとしては、博士あるいは工学のどちらかに焦点を当てたものであったと伺いました。

このフォーラムは工学研究科の人に限定されているので、あまり博士一般について議論してもと思いますし、特に博士(工学)に求められていることに対して考える機会となればいいのでは、と考えました。

## **8 : 工学と工学教育が作る日本**

"技術立国日本"という名がそろそろ厳しくなってきたこのご時世に、工学がどのように日本社会に貢献できるか、今後どのような立ち回りが必要とされるかなどについて、話し合うことを提示します。

工学のみならず、"工学教育"の観点からもディスカッションすることで、博士学生のみならず、修士学生に向けたメッセージ、意識付け等が提示できるのではないかと期待します。

## **9 : 工学博士として歩む将来**

学生達の一番の懸念でもある就職やキャリアパスに絡めながら、国内における工学博士の立ち位置や取り巻く環境について取り扱う。

基調講演として、工学博士を取得した方々に自身の経験と後進へのアドバイス・期待することを提示してもらおう。

グループ討論としては、将来の工学博士がその知識と能力を活かすために自分達がすべきこと、逆に社会に対して期待することを議論する。

追記：幹事学生による投票結果，上位 3 テーマは

**2：科学と政治**

**8：工学と工学教育が作る日本**

**9：工学博士として歩む将来**

であった。これらを統合する形で，最終的な基調テーマが決定された。

添付資料3：大学事務より各大学専攻への参加者推薦依頼

平成25年9月 日

八大学工学系連合会  
工学関連研究科長、研究院長 殿

京都大学大学院工学研究科長  
北野 正雄

2013年八大学工学系連合会「博士学生交流フォーラム」参加者推薦のお願い  
拝啓

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、標記フォーラムを下記日程で開催することとなりました。

つきましては、貴大学から教員及び博士後期課程に在籍する学生の参加者（教員及び学生）を別紙によりご推薦いただきますようお願いいたします。

なお、参加に係る旅費等につきましては貴大学においてのご負担をお願いいたします。

敬具

記

1. 日 時 平成25年11月8日（金）、9日（土）  
午後1時より（受付開始 午前11時）
2. 場 所 京都大学船井哲良記念講堂・船井交流センター  
(京都大学桂キャンパス内)
3. 推薦依頼人数 教員1名、博士後期課程学生3名程度（別紙参照）  
※ 次年度幹事校は北海道大学です。
4. 全体スケジュール 詳細については、後日ご連絡差し上げます。
5. 連絡先 〒615-8530  
京都市西京区京都大学桂  
京都大学工学研究科教務課大学院掛  
課長補佐兼掛長 小西 孝則  
担 当 者 中川 千恵子  
TEL 075-383-2040、2045  
e-mail: [090kdaigakuin@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp](mailto:090kdaigakuin@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)
6. その他 宿泊先別紙参照  
ホテル・京都・ベース  
〒600-8417  
京都市下京区烏丸通松原東南角  
TEL 075-352-1717  
ホームページ: <http://www.hotel-kyotobase.com/>

## 添付資料 4 : フォーラム開催案内

### 八大学工学系連合会博士学生交流フォーラムのご案内

本フォーラムは、大学や専門分野を越えた博士学生の幅広い交流の場の創設を目的に、平成 16 年度より 8 大学（北海道，東北，東京，東京工業，名古屋，京都，大阪，九州）の工学系研究科（大阪大学のみ工，基礎工の 2 研究科）の共同事業として設立されました。現在は八大学工学系連合会を主催とし、毎年度開催されております。

フォーラム幹事は 8 大学間で持ち回りとし、本年度は京都大学、来年度は北海道大学での開催となります。

フォーラムは、『**学生の作り上げるフォーラム**』として幹事校の学生実行委員が主体となり企画から運営までを担当していきます。これによって、学生の目線から関心の高いテーマを設定し、関連した先端研究に携わる研究者や業界の第一線で活躍する産業界関係者を、講演者やグループ討論アドバイザーとして招いて意見を交わすことで、専門分野にとらわれない多面的な視野や研究活動への刺激、多様な人脈形成のきっかけを学生が得ることを目的とします。

本年度は「**工学博士としての生き方**」を全体テーマとし、別紙にてご案内のとおり京大桂キャンパスにおいて開催いたします。つきましては、各大学より教員 1 名、博士後期課程学生 3 名を選出ください。

次年度の幹事校である北海道大学におきましては、来期の開催運営をスムーズに行えるよう **D1、D2** の学生を中心に学生 **5 名** 程度の選出をお願いいたします。

参加いただく教員、学生には、フォーラムにおきまして以下のご協力をお願いします。

**教員：** 各大学学生の引率  
グループ討論へのアドバイザーとしての参加  
研究紹介ポスターの審査員

**学生：** グループ討論への参加  
研究紹介ポスターセッションへの参加・審査

今回は、フォーラムの当初の意義である『**学生の幅広い交流と人脈の形成**』に重点を置き、開放型の講演・ポスターセッション、ウェブサイトを用いた情報発信などを企画しております。

フォーラム実行委員学生代表  
京都大学大学院工学研究科  
都市社会工学専攻 D3 久保 大樹

E-mail : [kubo.taiki.32n@st.kyoto-u.ac.jp](mailto:kubo.taiki.32n@st.kyoto-u.ac.jp)

フォーラム ウェブサイト : <https://www.facebook.com/8daidr>

## 添付資料 5：フォーラム趣旨文

本フォーラムは、博士学生らの大学や専門分野を越えた幅広い人的交流関係の構築と、研究活動に対しての意見・情報交換による相互触発を目的として、平成 16 年度より 8 大学（北海道，東北，東京，東京工業，名古屋，京都，大阪，九州）の工学系研究科（大阪大学のみ工，基礎工の 2 研究科）の共同事業として始まりました。フォーラムの企画・運営は、幹事校の学生達を中心となって行い、学生の視点から年度ごとに関心の高いテーマを設定して、関連する講演者の招待やグループ討論での活発な意見交換を実施しています。

10 周年を迎える今年度は、『工学博士としての生き方』を基調テーマとして設定しました。この大きな内容のテーマには、博士学生達が日々の研究活動の忙しさや将来への不安に紛れて見失いがちな「自分が博士という学位を得て何者になりたいのか」という根源的な問いがこめられています。

博士後期課程の目的は、当然ながら学位論文を修め博士号を取得することにあります。それでは、その先に待つさらに長い「工学博士」としての人生を、私達はどのように生きていくべきなのでしょう？

博士の肩書は、研究者として十分な能力と見識を有することを証明し、世界に通用するステータスとなります。同時に、その肩書に見合った能力を発揮し、広く社会に貢献することが期待されるでしょう。また、社会基盤に深く関わる「工学」の世界で生きる私達は、自分達の意見や行動が社会に影響を与え、ときに科学者として大きな責任を伴う立場となることも忘れてはなりません。

今回のフォーラムでは、学位取得を到達点ではなく新しい始発点ととらえ、そこから「工学博士」としてどのような意識で社会と関わっていくのか、そして、その新しいスタートに向けて博士課程という限られた時間の中で何を習得していくべきなのかについて、学生それぞれが自分なりのビジョンを得ることを目的とします。

特別講演では、実際に工学の分野において、社会的にも注目されるプロジェクトに携わる方々を講師として招き、その活動を通して見えてくる「工学博士」の担う役割について講演頂きます。講演者として、福島いわき市における東日本大震災後の復興計画に関わっておられる福島工業高等専門学校の芥川一則教授、探査衛星はやぶさプロジェクトマネージャーである JAXA の川口淳一郎教授をお招きしております。将来に向けて工学の分野が抱える大きな課題と夢、地域の人々との関わりと高度な専門家としての働きという、工学者として考えるべき二側面について考える機会となればと思います。

また、今年度のフォーラムでは、グループ討論において『八年後の博士課程を考える』という課題を設定します。

博士課程の学生には、在学中の経済問題や学位取得後の就職難・高学歴プア問題といった多くの困難や不安が付きまといまいます。さらに、博士号という世界に通用する高いステータスを獲得し将来の科学技術立国を担う人材としての活躍を期待される一方で、実社会での経験不足のために企業などから「使いにくい」と見られることへのジレンマを抱え、大学の教育と社会のニーズにミスマッチを感じる機会も少なくありません。こうした状況から、「博士後期課程」が多くの学生達にとって魅力に欠けるものであり、その意義も失いがちであると言わざるを得ない面があります。

グループ討論では、現役学生の視点からこうした博士課程を取り巻く現状に対する「リアルな問題意識」を導き出すことを狙いとします。そして、先にある『工学博士としての生き方』を見据えつつ、将来の学生達が経験する博士課程教育を、より意義のあるものとするためのユニークな解決策を自由に提案してもらいたいと考えます。

討論に際しては、産業界からのアドバイザー、博士課程学生を指導される大学教員の先生方にもご参加頂き、それぞれの視点からの意見を交えて、学生達の議論がより充実したものとなるようご協力をお願いいたします。そして、学生達の問題提起と提案が、これからの博士教育をより一層価値のあるものとするための一助となれば幸いです。

八大学博士学生フォーラム—グループ討論の枠組みに関して (内部向)

ver. 2013.11.1

・グループ討論の概要

討論テーマ大題目『八年後の博士課程を考える』

現役博士学生として感じる博士課程にまつわる問題意識の中から後進の博士課程にとって重要と考える課題点を一つ挙げ、学生間での意見交換および議論を通して、解決策・解決に向けたプロセス、およびそれを踏まえた博士学生への提言を行う。

・討論における趣意

1. 私達博士学生は、博士課程に関して「在学中の経済的問題」「博士号取得後の進路」「大学内と社会との博士に対する意識の相違」「博士課程における教育やカリキュラム」「工学博士としての意識付け」などの不安・不満・問題意識や悩みを抱えている
2. 大学や分野を超えた学生間の対話を通してそれら意識を共有し、共通する問題意識に気づくことや逆に異なる意見に学べることが、博士フォーラムにおける一つの意義となる
3. 挙げた課題点の内の一つをテーマとしたグループ討論を行い、八年後の博士学生に向けた博士課程における解決策の提示および博士学生への提言をグループ発表での目標とする

・グループ討論のプロセス

1. 幹事学生を暫定の進行役とし、グループでの自己紹介の進行や討論内容の提示などを行う。
2. 議長／討論の進行役 (ファシリテーター) を決定する。特に名乗りがなければ幹事学生をそのまま討論の進行役とする。
  - a. 進行役は「タイムキープ」、「議論の整理 (次のステップへの提示)」、「発言の少ない学生にも話を振る」などの役目を担ってもらうが、進行役のみならず他の参加者もその意識を持つと議論を大いに進めやすい。(c.f. Ref[1] 第4章など)
  - b. 進行役とは別にホワイトボードに議論の進展やキーワードを適宜メモできる (簡易) 書記がいてもよい。

3. 博士課程に対する問題意識を各学生から意見提示してもらおう。これにより学生間での意見共有や議論に繋がるとよい。必要であれば論点となるキーワードを提示する（後述）。
4. 意見として挙げられた課題点の内一つを選択し、グループ討論および発表におけるテーマとする。
5. グループ討論を通して課題点に対する解決策や、またその実現・改善に向けた方法やプロセスを考える。
6. 議論した課題点・解決策・プロセスなどを、15分程度の発表としてまとめる。
7. グループ発表を行う。

・必要な物品・準備内容

- ホワイトボード：備え付け+Bクラ事務部からの貸出で手配済
- ホワイトボード用ペン：済（中川さんより）
- 紙・ボールペン：済
- 発表用資料作成のための物品
  - PC：幹事学生から + 参加者個人
  - 紙ベースでの作成も可能とするなら、発表用紙(厚手)・油性(水性)ペンも要
- 議論に必要な参考資料(各キーワード当たり一つ程度)
  - 博士進学者数や就職率の遷移
  - 博士学生向けの経済支援・雇用(RA)例→JASSO, 学振

キーワード案(4つ)

- 「大学院での経済的支援」
- 「博士号の取得後」
- 「博士課程で学べる、学ぶべきこと」
- 「社会に誇れる博士とは」

※ キーワードの字面からイメージできるような文言で提示

参考 [1. 頭が良くなる議論の技術: 齋藤孝著, 講談社現代新書 より]

#### 議論の作法5つ

- 「できるだけ相手と違う立場に立つ」(議論を弁証論的思考で行うため)
- 「まず考えるべきテーマを設定する」
- 「反対意見を述べるだけではなく対案を出す」
- 「時間感覚隔を持つ」
- 「後戻りしない」

9/26 全体 ML より

#### 3. グループ討論

- 趣旨文にまとめた方針を進める。
- 大まかなカテゴリ分けは事前に割り振るのではなく、各グループの討論の序盤でどの方針で話を進めるのかを考えてもらう形で進める。
- こうしたおおよその時間配分や議論の円滑な進行のため、京大の幹事学生がチェアマンとして参加する。
- 討論結果の発表形式をどうするか？
- パワーポイントを使うなら各グループにノート PC を準備する必要がある。
- 書面やホワイトボードを使う場合は、スクリーン投影用のカメラを準備する（おそらく貸出用備品として講堂にあるはず）
- 討論用の付箋、模造紙などの準備 → 事務から借りられるとのこと。
- ホワイトボードが設置されていない会議室があるため、その分の調達が必要。
- グループ分けは現在8グループで考えているが、6グループ程度にしても発表時間の圧縮などのメリットがあるので良いかも。
- アドバイザーなどの人数を考えて調整。

## 添付資料 7 : 参加学生へのイベント詳細案内

### フォーラム当日の流れ

#### 1 : 受付・ポスター掲示

第1日目(11月8日)は午前11時より、会場入り口にて受付を行っております。受付にて、懇親会参加費(学生3,000円、教員4,000円)をお支払い頂き、名札とパンフレットをお受け取りください。学生は会場一階のホールにて、指定の場所にポスターの掲示をお願いいたします。

会場にはA0サイズが十分に余裕を持って掲示できるサイズのボードを人数分用意しております。必要であれば、PC・タブレットなどを併用しての発表も可能ですが、特別講演の間もポスター会場は開放いたしますので、各自のポスターの説明をして頂くポスターセッション以外の時間には貴重品の放置は行わないようご注意ください。

#### 2 : 開会挨拶・特別講演

13:00より会場二階の講堂において、開会挨拶(白井泰治 実行委員長)と諸連絡の後、特別講演を開催いたしますので、参加者の皆様は時間までに会場へ移動願います。

講演者として、福島高専コミュニケーション情報学科 芥川一則教授、JAXAはやぶさ元プロジェクトマネージャー 川口淳一郎教授をお招きしております。ご講演後にはそれぞれ10分程度の質疑応答の時間を設けております。

また、講演者の方の時間の都合により、講演終了後に講堂にて集合写真の撮影を予定しております。

#### 3 : ポスターセッション

講演終了後、会場一階のホールにてポスターセッションを行います。

セッションは4グループに分かれ、学生は担当時間に各自のポスターの説明を行い、それ以外の時間は他の学生のポスターを観覧・交流を行ってください。また、ポスター発表賞を決定いたしますので、学生・教員の皆様には審査と投票をお願いいたします。

#### 4：グループ討論

ポスターセッション終了後、グループごとに指定の会議室に移動し、グループ討論を行います。グループ討論の班分けや、討論テーマなどについては、別紙にてご案内させていただきます。

討論に必要な道具類として、ホワイトボード、付箋、マーカーを用意いたします。最終的な発表の形式は、パワーポイントの利用、書画カメラによる用紙の投影など、各グループの判断にお任せします。京大側で Office のインストールされたノート PC を用意いたしますが、必要でしたら各自のノート PC などを持ちこまれても結構です。

#### 5：懇親会

第1日目のグループ討論終了後、別会場にて懇親会を行います。

懇親会は半立食形式（指定テーブル無し）のフリードリンク制となります。時間は2時間程度で、懇親会内にてポスター賞の発表を行わせて頂きます。

アレルギーや宗教上の理由により食べられない食材のある方は、事前に連絡をお願いいたします。

#### 6：解散・宿泊

懇親会以後は自由時間とし、各自でお過ごしてください。こちらで用意しておりますホテル（ホテル・京都・ベース）にご宿泊の方は、幹事学生が同行いたします。

ホテルは朝 7:00 より併設のカフェにて朝食をお取りいただき、フォーラム第2日目(11月9日)の開始時刻までに会場に移動を願います。主要な時間とルートには幹事学生が同行いたします。

また、チェックイン・チェックアウトの手続きと料金のお支払いは各自でお願いしておりますので、混雑にならないよう余裕を持ってのご準備をよろしく願いいたします。

## 7：グループ討論・発表・閉会

各会議室にて、第1日目のグループ討論の続きを指定の時間まで行って頂き、終了後に講堂にて全体発表を実施いたします。発表用には、スクリーンとPC、書画カメラを用意いたしますので、自由にご活用ください。

各グループ発表10分、質疑応答5分程度を予定しております。

討論発表後、閉会の挨拶を持ちましてフォーラム終了となります。どうぞ秋の京都をお楽しみください。

### ・ポスターについて

フォーラム第1日目にポスターセッションを実施します。自身の研究紹介ポスターを**持参ください**。セッションでは4グループに分かれ、それぞれ20分程度の発表時間を設ける予定です。その後、参加者全員から投票を頂き、ポスター賞を決定します。ポスター賞には、多少ながら賞品を用意する予定です。

サイズはA0程度を推奨しますが、厳格なレギュレーションなどは定めません。学会などで作成されたものを流用頂いても結構です。また、PCやタブレットを併用しての発表も可能です。テーブルなどの準備が必要であれば、事前に連絡ください。

参考として、昨年のフォーラムにて久保（幹事代表）の作成したポスターを添付いたします。ただし、賞からは漏れたものですので、あくまで参考程度としてください。

多くの分野の学生や教員が集まりますので、専門外の人にもわかりやすいポスターを心がけて頂けると助かります。また、グループ討論前のコミュニケーションも兼ねますので、学術的内容だけでなく研究活動の様子といった自己紹介的な内容を含んで頂いても結構です。必要であれば、別ページとして作成し、展示することも可能です。

## ・グループ討論について

フォーラム第1日目の後半と第2日目にグループ討論を行って頂きます。

本フォーラムでは「8年後の博士課程を考える」という討論課題を設定いたしました。討論では、現役学生の視点から博士課程を取り巻く現状に対する「問題意識」を導き出すことを狙いとします。そして、先にある『工学博士としての生き方』を見据えつつ、今後の博士課程教育を、より意義のあるものとするためのユニークな解決策を自由に提案して頂きたいと思います。討論では、産業界、大学教育関係者の方々にアドバイザーとして参加頂き、それぞれの視点から意見を交えて議論を深めて頂きますが、学生と教員・企業といった関係に捕らわれずに、三者対等の立場で博士課程についての不満や課題・改善策を考えて頂ければと思います。グループは参加者確定後6～8班に分け、別紙にてご連絡させていただきます。

付箋紙やホワイトボードを各部屋に用意いたしますので討論にご活用ください。また office ソフトのインストールされた PC も一台ずつ用意いたしますが、ご自分の PC を持ちこんで頂いても結構です。2日目の討論時間終了後、発表10分質疑5分程度の全体発表を行って頂きます。会場にはプロジェクターと発表用 PC、書類の投影用書画カメラを用意しております。どのような形式で行うかは、各班の判断にお任せいたします。

本グループ討論が二日間に渡るフォーラムのメインとなりますが、**教員や企業関係者による学生の品定めや就職に向けたグループディスカッションの練習ではないことにご注意ください**。「現役学生の視点から博士課程の問題点を外部にアウトプットする」ということを対外的な名目としておりますが、学生の皆様は気負わずに他大学の学生の状況について知り、交流を持つ機会として、一種の討論ゲームのつもりでお楽しみください。

## 添付資料 8 : 学内向け開催案内

### 2013年 八大学工学系連合会「博士学生交流フォーラム」開催のご案内

来る平成 25 年 11 月 8 日(金)より, 第 10 回「博士学生交流フォーラム」が京都大学桂キャンパスにおいて開催されますので, ご案内申し上げます。

本年度は「工学博士としての生き方」を基調テーマに下記の要領にて実施いたします。

- 1) 日 時 平成 25 年 11 月 8 日 (金) ～ 9 日 (土)
- 2) 会 場 京都大学大学院工学研究科 (桂キャンパス内) 船井哲良記念講堂
- 3) 開放イベントスケジュール (当日受付にて入場・観覧可能です)

#### 11 月 8 日 (金)

##### ● 特別講演 (二階 講堂)

13:10 ～ 14:00

芥川一則 教授 「東日本大震災復興における研究者の取り組み」  
福島工業高等専門学校 コミュニケーション情報学科  
広野町除染作業委託審査委員会委員 (委員長) ほか

14:10 ～ 15:00

川口淳一郎 教授 「やれる理由を見つけて挑戦することが独創をかなえる」  
独立行政法人宇宙航空研究開発機構 シニアフェロー  
小惑星探査機「はやぶさ」プロジェクトマネージャー (1996 - 2011)

##### ● 学生ポスターセッション (一階 国際連携ホール)

13:10 ～ ポスター展示ホール開放

15:20 ～ 16:40 ポスターセッション (国際連携ホール)

#### 11 月 9 日 (土)

##### ● グループ討論 全体発表 (二階 講堂)

11:20 ～ 13:00 討論課題「八年後の博士課程を考える」

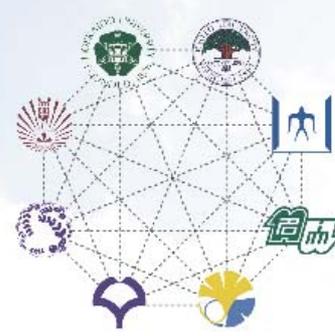
八大学の博士学生らの研究活動や, 現役学生が自分達の学ぶ博士課程についてどのように考えているのかを知る機会として, 先生方にも会場に足をお運び頂けましたら幸いです。また, 特別講演は博士学生に限らず, 工学分野で学ぶ学生にとって極めて意義のある内容であると考えます。どうぞ研究室所属の学生らにも周知くださいませ。

登録イベントを含む全日程や参加者情報などの詳細についてのお問い合わせは, 実行委員学生代表の久保大樹 (kubo.taiki.32n@st.kyoto-u.ac.jp) までお願いいたします。

また下記の公式告知ページからも情報を確認いただけます。

[http://www.uceenet.org/wp/?events=8std\\_forum](http://www.uceenet.org/wp/?events=8std_forum)





## 八大学博士学生交流フォーラム

### 2013年11月8日(金) - 11月9日(土)

桂キャンパス 船井哲良記念講堂

主催: 八大学工学系連合会  
協力: UCEE NET

「工学博士としての生き方」を基調テーマに、  
第10回博士学生交流フォーラムを開催します。

当日受付にて開放イベントへの入場・観覧可能です。  
皆様のご参加をお待ちしております。

開放イベント スケジュール

**11/8**

- 特別講演 -

13:10 - 14:00 **「東日本大震災復興における研究者の取り組み」**

福島工業高等専門学校 コミュニケーション情報学科  
広野町除染作業委託審査委員会委員 (委員長)  
特定被災地域公共交通調査事業 調査事業連絡協議会会長

**芥川 一則 教授**



14:10 - 15:00 **「やれる理由を見つけて挑戦することが  
独創をかなえる」**

独立行政法人宇宙航空研究開発機構 シニアフェロー  
宇宙科学研究所 宇宙飛行工学研究系 教授  
小惑星探査機「はやぶさ」プロジェクトマネージャー  
(1996-2011)

**川口 淳一郎 教授**



- 学生ポスターセッション -

13:10 - 15:10 展示ホール開放  
15:10 - 16:40 ポスターセッション

- グループ討論 -

**「八年後の博士課程を考える」**

**11/9**

11:20 - 13:00 グループ討論 全体発表

- お問い合わせ -

都市社会工学専攻 久保大樹 (学生幹事)

kubo.taiki.32n@st.kyoto-u.ac.jp



- 公式告知ページ -

UCEE ネット / 八大学博士学生交流フォーラム

[http://www.uceenet.org/wp/?events=8std\\_forum](http://www.uceenet.org/wp/?events=8std_forum)



## 添付資料 10：前年度フォーラム参加者参考意見

※幹事代表（前年度参加者）が個人的に連絡の取れる学生に意見を募ったものである。

### 1：昨年のフォーラムにおいて、改善したほうが良いと思われる点はあったか。

#### 会場・予算に関して

- ・日本各地の大学からの参加者がいるので、会場をそれぞれの大学のキャンパスというよりは、もっと交通の便のいい場所にした方が参加者にとって良いのではないかと思います。例えば、新幹線の止まる駅の近くなど。予算の都合などもあると厳しいとは思いますが。
- ・各大学負担経費については、フォーラムの一部においてその進行がバンケットを利用して行われるにも関わらず、バンケット代を参加費とは別扱いで自費で支払わなければならないことに疑問を感じる。

#### グループ討論・ポスター発表に関して

- ・ポスター発表について、発表・議論の時間がもっと長くてもいいように感じました。
- ・2日間で(実質数時間で)議論をまとめるにはテーマが大きすぎたように思います。
- ・ディスカッションの時間、まとめ発表する時間が難しいと思います。  
また、中間発表みたいのもあると、まとめやすくなるかもしれません。
- ・グループ討論のテーマが、博士過程の学生が中立的な立場で議論できるようなテーマ設定では無かったように感じました。  
例えば、昨年のテーマの「博士課程は必要とされているのか？」は、博士課程の学生は少なくともその必要性を感じて進学しているわけですし、議論がなんとなく自分の進路選択に対する弁護のように感じ、非常に違和感のあるものでした。
- ・学生間のディスカッション時間が長い。時間を調整すれば一日にまとめられるように思う。

## 2 : 本フォーラムが学生にとって意義のあるものであったと思うか。

- ・意義があったと思います。

小さいながらも全く別分野の方を対象とした発表の機会は貴重でした。また、他の研究をされている方と交流を深められたのは良い経験出会ったと思います。私にとっての収穫はどちらかと言うとフォーラムで行われた議論よりは他の学生と会えたことに有りました。

ただ、この目的を達成するためであれば、何も8大学まとまらずとも、京大内で異分野交流会を開けば良いだけなのかもしれません。

- ・ほかの大学の博士学生との交流、あるテーマについてディスカッションすることは有意義であると思いました。なかなか自分の意見を、同じ境遇の人とぶつけ合うことはないのです。
- ・私にとっては正直、あまり意義のあるものではなかったと思います。

理由としては大きくは以下の2点です。

議論をした内容は、博士課程の学生としては考えておかなければならないことではあると思いますが、そこで出した結論などがどのように活かされているのかわからないということが一番の理由です。議論をするだけならば、わざわざいろいろな大学の学生を集めてやらなくても、各大学の中でもできるだと思うので、日本中から学生を集めてやるだけの意義があまり感じられなかったです。

また、人脈作りという意味合いもあるのかもしれないですが、私の専門分野が工学系では比較的マイナーな化学ということもあり、博士学生フォーラムで知り合った方々と会う機会がほとんどないことから、私自身としては人脈作りの面でもあまり大きな影響はなかったような気がします。

- ・ポスター紹介の部分と1日目終了後に学生同士や先生方と飲みにいった部分に関しては意義を感じました。
- ・博士学生の自己啓発という本フォーラムの目的には賛同したいが、労働対効果は低い。

昨年、ディスカッションと発表では博士学生の存在意義を問う普遍的な議題が中心であったため、専門分野に携わる立場としての意見はあまり必要とされず、専門分野を超えた人的交流関係の構築には及ばなかったように感じる。特に、大学の運営方針に関わることについて、学生間で結論を出すことには意義を感じない。

## フォーラム趣旨に関して

### 1. フォーラム全体の方針

これまでの話し合いから、博士学生交流フォーラムの目的として「博士課程に在籍する自分達について考える」「自分達が在籍する博士課程について考える」という二つの見方があると感じました。言葉を変えれば、フォーラムを通して学生達が何かを「得る」ことを目的とするか、何かを「発信する」ことを目的とするかの違いと言えます。

今回のフォーラムでは、両者を同時に満たすために、**全体テーマ（基調講演）とグループ討論の課題を切り離す**という方針をとることとしました。前述の分類に則ると、基調講演を主に「博士課程に在籍する自分達について考える」場とし、グループ討論を主に「自分達が在籍する博士課程について考える」場とすることになります。

### 2. 基調テーマ・特別講演

主に基調講演の方針に関わるため、全体テーマを基調テーマと呼称しています。基調テーマは既に決定のとおり『工学博士としての生き方』とします。

文面としては例年のものと大きく変わりませんが、これまでのテーマや基調講演の趣旨の多くが「博士課程学生を取り巻く問題や社会のニーズを明らかにし、自分達がこれにどう対応していくか」というものだったのに対し、今回は「現状や社会のニーズを踏まえた上で、自分がどうなっていきたいのか」と、**あくまで主体を学生自身に置くことを目指しています**。この方針に従い、基調講演も教育関係者による博士課程や博士号取得者を取り巻く現状の解説よりも、工学の世界で活動する方の自身の経験を通じた**考え**などを中心にお話して頂きたいと考えています。

### 3. ポスターセッション

ポスターセッションはグループ討論の前に専用の時間と会場を設け、時間も長めに確保できるようにしました。これは、討論の前にグループ内の学生がどういう人なのかを知る機会を設けるためです。

ポスターについては、学会発表のような研究内容の紹介よりも、自分が普段どのような研究活動を行っているのかが伝わるような内容で作成してもらえたらと考えています。

#### 4. グループ討論

グループ討論では、「1. フォーラム全体の方針」で述べたように、これまでのように全体テーマの下に小テーマを設ける形ではなく、明確な「討論課題」を設定することとしました。

今回は『八年後の博士課程を考える』とし、グループ全体で現在の博士課程の問題点・課題点を考え、これを解決していく方法を提案してもらうこととします。

討論の肝となるのは博士課程の問題点・課題点の洗い出しの部分であり、これまでのように幹事学生側で考えた「問題意識」を押しつけて討論させるのではなく、大学を超えた学生の話し合いの中から共通する問題意識や逆に互いに学ぶべき部分を見つけ出すことこそ、フォーラムの意義と合致すると考えました。「八年後の博士課程の提案」の部分は、討論を単なる不満の出しあいや愚痴の言い合いにせず建設的な方向に進めたいことと、討論の具体的な着地点を設定しゲーム的な要素を与えるためのものであり、あまり重視する部分ではありません。ただし、この中から何かしら魅力的な教育プログラムが生まれ、次の京大フォーラムまでに実現に向けて動くことができたら素晴らしいと思います。

討論時間の関係から、「学生の意識付け」「進学・就職問題」「教育カリキュラム」程度のカテゴリ分けを行うかもしれません。

#### 5. 討論アドバイザー

例年通り、UCEE ネットおよび引率教員の方々にはアドバイザーとしてグループ討論への協力をお願いいたします。博士課程の問題点・課題点の洗い出しの段階において、学生の視点からだけではとらえられない実情や、逆に産業界・教育者側から学生に対して感じる問題点などをお話し頂き、学生・大学・産業界の三者の視点を交えて今後の博士課程がより良いものとなるような討論と提案ができたかと考えております。

## 添付資料 12 : パンフレット自己紹介記入フォーム

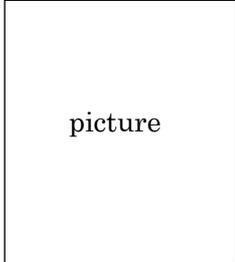
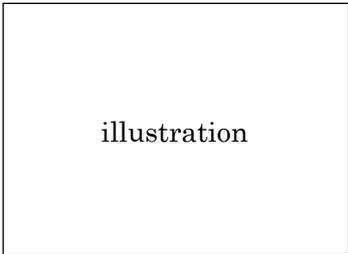
### 日本人学生用

名前（ふりがな）：	
学年： 所属： メールアドレス： 出身・略歴： 趣味・特技：	顔写真
研究概要	☒
コメント	

### 注意事項

- 枠内に収まるようにお書きください。また枠の大きさの改変はご遠慮ください。
- 顔写真を貼り付けてください。
- 略歴には職歴等をお書きください。
- 研究概要は☒を一枚と簡単な説明をお書きください。
- 顔写真と☒の枠は大方の目安ですので貼り付け時に消して下さってかまいません。
- コメントには今後の進路の希望などをお書きいただくとありがたいです。

留学生用

Name:	
Grade:	
Affiliation:	
E-mail:	
Hometown:	
Hobby and shtick:	
Brief introduction of your work	
Comment	

Attentions

- Please fill out within the frames. Don't change the size of frames.
- Please insert a photograph of your face.
- Please insert a brief explanation and an illustration in introduction of your work.
- You may delete the frames of picture and illustration when you insert.
- In comment , please insert a kind of plan after you graduate Ph. D course.

添付資料 13：学生ポスターリスト

所属	学年	氏名	ポスター番号	ポスタータイトル	所属研究室名	指導教員(敬称略)
北海道大学 北方圏環境政策工学専攻	D2	DuQianQian(ドウ チェンチェン)	A1	A vulnerability scanning methodology applied in multiple logistics transport network	交通インテリジェンス研究室	岸邦宏(准教授)
九州大学 物質創造工学専攻	D2	植木亮介(ウエキ リョウスケ)	A2	生命現象を“見る”ための分子戦略	福盛フロンティア研究センター 山東研究室	山東信介(教授)
名古屋大学 マテリアル理工学専攻	D1	水谷剛士(ミズタニ ツヨシ)	A3	液中プラズマを用いた金ナノ粒子を担持した酸化	八木研究室	八木伸也(教授)
北海道大学 エネルギー環境システム専攻	D1	青山祐介(アオヤマ ユウスケ)	A4	凍結固定化法を用いた固体高分子形燃料電池におけるMPL内水輸送現象のCryo-SEM観察	エネルギー変換システム研究室	近久武美(教授)
九州大学 デザインストラテジー専攻	D2	李芝妍(イ ジョン)	A5	商業地域における地域イメージと表現要素に関する研究	パブリックデザイン研究室	森田昌嗣(教授)
東京工業大学 生命情報専攻	D2	東光一(ヒガシ コウイチ)	A6	核様体タンパク質H-NS結合位置の大腸菌株間比較解析	黒川・山田研究室	黒川颯(教授)
北海道大学 総合化学専攻	D2	高田健司(タカダ ケンジ)	A7	有機強酸触媒を用いたグルーブトランスファー重合による末端官能基化高分子量ポリアクリル酸エステルの精密合成	高分子機能化学研究室	覚知豊次(教授)
京都大学 分子工学専攻	D1	中辻博貴(ナカツジ ヒロタカ)	A8	生体由来ナノディスクを利用した光応答性金属ナノ材料の生体応用	光有機化学分野	今堀博(教授)
東京工業大学 物理情報システム専攻	D1	落合奈美香(オチアイ ナウカ)	A9	網膜LM錐体比の個人差と色覚特性の関係	内川研究室	内川恵二(教授) 福田一帆(助教)
東北大学 環境科学専攻	D1	寺坂宗太(テラスカ ソウタ)	B1	廃棄骨を利用した機能性吸着材料の作製と水質汚濁物質除去能力の評価	井上・上高原研究室	井上千弘(教授)
京都大学 原子核工学専攻	D3	武川哲也(ムカフ テツヤ)	B2	マイクロドジメトリ手法を用いたBNCT用熱外中性子ビームの線質評価	放射線医学物理学研究室	櫻井良憲(准教授)
九州大学 化学システム工学専攻	D2	森裕太郎(モリ ユウタロウ)	B3	木材を砂糖へと変換する技術 ～新規生体触媒“デザイナーセルロソーム”を用いたセルロース分解反応の高効率化～	後藤・神谷研究室	神谷典穂(教授)
東北大学 技術社会システム専攻	D3	栃木靖久(トチギ ヤスヒサ)	B4	1000万コマ/秒の動画撮像性能を有する高速CMOSイメージセンサに関する研究	須川研究室	須川成利(教授)
京都大学 建築学専攻	D1	小林祐貴(コバヤシ ユウキ)	B5	極小剛な Panel-Hinge グラフの列挙及び形態デザインへの応用	加藤研究室	加藤直樹(教授)
大阪大学 バイオ情報工学専攻	D2	大野聡(オノ サトシ)	B6	微生物を利用したものづくりと細胞シミュレーションの応用	代謝情報工学講座	清水浩(教授)
東京大学 航空宇宙工学専攻	D1	藤川貴弘(フジカフ タカヒロ)	B7	複合領域設計探索のための最適化手法と再使用型宇宙往還機への応用	鈴木・土屋研究室	鈴木武司(准教授)
京都大学 物質エネルギー化学専攻	D2	谷洋介(タニ ヨウスケ)	B8	銅を触媒としたCO2固定化反応の開発	辻研究室	辻康(教授)
大阪大学 機能創成専攻	D1	吉本明史(ヨシモト アキフミ)	B9	Dynamic and Quasi-static Compressive Deformation Behaviour of Polyimide Foam at Various Elevated Temperature	材料構造工学講座(小林研究室)	小林秀敏(教授)
東京工業大学 生物プロセス専攻	D1	野原健太(ノハラ ケンタ)	C1	超好熱始原菌における水素発生代謝の解析	福居研究室	福居俊昭(准教授)
東北大学 量子エネルギー工学専攻	D2	福田誠(フクダ マコト)	C2	Microstructural development of tungsten and tungsten-rhenium alloys due to neutron irradiation in HFIR	高エネルギー材料工学分野	長谷川晃(教授)
京都大学 都市環境工学専攻	D2	周靨(シュウ リャン)	C3	Infection Risk Assessment of Campylobacter jejuni in Drinking Water Treated with Water Treatment Process Reducing Chlorinous Odor カルキ臭低減型浄水処理プロセスにおけるCampylobacter jejuniの感染リスク評価に関する研究	都市衛生工学研究室	伊藤禎彦(教授)
東京工業大学 機械制御システム専攻	D1	和佐泰明(ワサ ヤスアキ)	C4	電力融通ネットワークのゲーム理論的分散協調最適化	藤田政之研究室	藤田政之(教授)
北海道大学 エネルギー環境システム専攻	D1	赤澤真之(アカザワ マサユキ)	C5	分散協調型コジェネレーションシステム構築のためのモデル解析	エネルギー変換システム研究室	近久武美(教授)
九州大学 デザインストラテジー専攻	D2	王昕(オウ キン)	C6	駅ビルにおける公共トイレの実態調査および評価に関する研究	パブリックデザイン研究室	森田昌嗣(教授)
名古屋大学 電子情報システム専攻	D1	中野裕介(ナカノ ユウスケ)	C7	真空中固体絶縁物上浴面放電メカニズムに関する研究	早川研究室	早川直樹(教授)
北海道大学 環境循環システム専攻	D2	禮上堯(レンジョウ タカシ)	C8	ピーチロックの形成メカニズムについての考察	地殻工学研究室	川崎了(准教授)
京都大学 機械理工学専攻	D1	初鳥匡成(ハツトリ マサナリ)	C9	一般すべり流理論の非定常系への拡張と応用	分子流体力学研究室	青木一生(教授)
京都大学 都市社会工学専攻	D3	久保大樹(クボ タイキ)	-	亀裂性岩体を対象としたマルチスケール亀裂解析と広域地下水流動シミュレーションへの応用	地殻環境工学講座	小池克明(教授)
大阪大学 電気電子情報工学専攻	D1	井上文彰(イノウエ ヨシアキ)	D1	多元マルコフ型到着流を収容する待ち行列モデル	滝根研究室	滝根哲哉(教授)
東京大学 原子力国際専攻	D1	山元祐太(ヤマモト ユウタ)	D2	微量同位体分析に向けた多段共鳴イオン化したカルシウムイオンの捕獲観測	長谷川研究室	長谷川秀一(准教授)
京都大学 電子工学専攻	D1	木村知玄(キムラ トモハル)	D3	原子間力顕微鏡を用いた有機半導体薄膜のナノスケール電気特性評価	電子材料物性工学研究室	山田啓文(准教授)
名古屋大学 化学・生物工学専攻	D2	根路銘葉月(ネノメ ハツキ)	D4	超臨界二酸化炭素を用いた有効成分のナノ化	拡散プロセス工学研究室	後藤元信(教授)
東北大学 技術社会システム専攻	D1	臼井岳文(ウスイ タカフミ)	D5	技術進歩を考慮したエネルギー経済モデルの開発とその応用	中田・長江研究室	中田俊彦(教授)
京都大学 マイクロエンジニアリング専攻	D1	桒崎寛雄(ノザキ ヒロオ)	D6	多原子分子におけるラグランジュ面による化学結合の理論的研究	量子物性学研究室(立花研)	立花明知(教授)
九州大学 海洋システム工学専攻	D2	安藤悠人(アンドウ ユウト)	D7	配管自動設計システム	システム計画学研究室	木村元(准教授)
東京大学 機械工学専攻	D2	木崎通(キザキ トオル)	D8	Y-TZPのレーザー加工熱援用切削加工法に関する研究	光石・杉田研究室	杉田直彦(准教授)
京都大学 材料化学専攻	D2	栗田寛太郎(クリタ トラタロウ)	D9	フェムト秒レーザー多点同時照射によるガラス内部の元素分布形状制御	機能材料設計学分野	三浦清貴(教授)

## 添付資料 14 : 配布タイムテーブル

京大博士学生交流フォーラム(11月8,9日)タイムテーブル 10月25日版		
1日目		
開始時間	参加者イベント	開放イベント
11:00	受付 ポスター掲示	
11:10		
11:20		
11:30		
11:40		
11:50		
12:00		
12:10		
12:20		
12:30		
12:40		
12:50		
13:00	開会挨拶・連絡/講堂	ポスター展示 (開放)
13:10	特別講演1/講堂 福島工業高等専門学校 コミュニケーション情報学科 芥川一則 教授 (開放)	
13:20		
13:30		
13:40		
13:50		
14:00	休憩/調整	
14:10	特別講演2/講堂 JAXA川口研究室 (小惑星探査機「はやぶさ」元 プロジェクトマネージャー) 川口淳一郎 教授 (開放)	
14:20		
14:30		
14:40		
14:50		
15:00	集合写真撮影	
15:10	移動・休憩	
15:20	ポスターセッション/ホール (Aグループ)	
15:30		
15:40		
15:50		
16:00	ポスターセッション/ホール (Cグループ)	
16:10		
16:20	ポスターセッション/ホール (Dグループ)	
16:30		
16:40	移動・休憩	
16:50	グループ討論/各会議室	
17:00		
17:10		
17:20		
17:30		
17:40		
17:50		
18:00		
18:10		
18:20		
18:30		
18:40		
18:50		
19:00	移動・休憩	会場閉鎖
19:10	懇親会	
19:20		
19:30		
19:40		
19:50		
20:00		
20:10		
20:20		
20:30		
20:40		
20:50		

2日目	
開始時間	参加者イベント
9:10	集合・準備
9:20	グループ討論/各会議室
9:30	
9:40	
9:50	
10:00	
10:10	
10:20	
10:30	
10:40	
10:50	
11:00	
11:10	移動・休憩
11:20	討論発表/講堂 (開放)
11:30	
11:40	
11:50	
12:00	
12:10	
12:20	
12:30	
12:40	
12:50	
13:00	総括・閉会
13:10	
13:20	

(開放)表記のイベントは、登録参加者以外も観覧可能な開放イベントとして実施されます。

【2012年 フォーラム幹事より参加学生へのメール1】

2012/10/23

件名 : はじめまして！

おはようございます，東京工業大学創造エネルギー専攻博士後期課程3年の----と申します。

11月9日～10日にて開催されるこのたびの博士交流フォーラムの幹事をやらせていただいております。皆さまには，お忙しいところわざわざお時間をつくって来ていただきますので，せっかくの機会ですし皆さまと一緒に楽しい時間を過ごすことができればと思っております。どうかご理解ご協力の程，よろしくお願いたします。

本日は三点ほど事前のお願いがございます。

1. 下記の4つのテーマから，ご興味の高い順序をご返信ください
2. 専攻・専門・出身・趣味・コメントをご返信ください
3. ご研究内容紹介のポスター作成のお願い（A0サイズを奨励いたします）

1と2に関しましては今週中までにご返信くださいますよう，お願い申し上げます。1はグループディスカッションのテーマとしてグループを割振る際に参考にさせていただきますが，人数を均等に割振るためにご希望に添えない場合もございますので，ご了承ください。2は当日簡易なプログラムを用意させていただきたいと思っております，そのさいに掲載するものですので，掲載をご希望されない場合は掲載が可能な範囲でご返答いただければありがたく感謝いたします。3については，参加者の研究内容を紹介するポスターセッション（添付のタイムテーブルをご参照ください）を初日に設けてありますが，その際に掲示していただくものです。ポスターセッションでは投票によりポスター賞を選出し賞品をお渡しする予定です。

以上，これから一か月の短い間ではございますが，どうぞよろしくお願いたします。

## グループディスカッションのテーマ

今回の博士交流フォーラムでは、私たち自身の問題にかんして、皆さまがどのように考えているのか、これからどうやって生きていくのか、浮き世の冷風を処していくのかなどについて意見交換ができればと思っています。私たち、東工大の学生実行委員で、今回のグループディスカッションのテーマについて以下のように設定させていただきました。(ア)～(エ)のテーマを興味のある順序に並べ、2の内容と併せてご返信いただけますようお願いいたします。

### (ア) 博士課程の存在意義

問題意識：「博士過程」は必要とされているのか？

背景：博士過程の研究成果は社会的に評価を受けている一方で、博士課程を修了した人材は社会で活躍できる機会が少なく、供給過多である（人口1万人に対する研究者の割合は51人と、G8、中国、韓国の国々の中では最も多い

<http://www.stat.go.jp/data/kagaku/pamphlet/s-01.htm>）。すなわち、成果は社会的に受け入れられているが、人材は社会的に受け入れられているとは言い難い。また、博士過程進学者は減少しているが社会人博士は増加していることや、田中耕一氏のように博士号を持たないノーベル賞受賞者の登場など、社会は博士過程を必要としないようにも思える。果たして、「博士過程」の社会的な意義というのは一体なんなのだろうか？ そのような風潮の中で我々当事者は一体どう行動するべきなのだろうか？

### (イ) 大学における教育のあり方

問題意識：大学・大学院は、「会社」で必要とされる人間を教育する就職予備校的な場なのだろうか？

背景：大学は独立行政法人化などにより資本主義的な経営を迫られている。大学は外部資金調達のために企業との繋がりを求めて、就活対策などの授業も新設させ、大企業に効率的に学生を送り込みたい。また産業界に迎合した教育や研究によって共同研究などによる外部資金を調達したい。資本主義社会で大学が生き抜いていくためには、教育はその手段でしかない。かたや学生も大学は企業に入るための準備期間だと捉えており、就職活動関連の授業を増やし、企業に入ってからすぐに役立つ講義を充実させるべきだと主張する。このような小手先の教育は、大学と学生の利害が一致しているように見えるが果たしてそうなのだろうか？ 後輩を育てていく立場にある我々は、どのような態度で後輩の教育にあたるべきだろうか？

#### (ウ) 大学の存在意義

問題意識：大学・大学院は本当に必要か？

背景：大学は独立行政法人化に伴い、外部資金の調達に勤まなければならなくなつた。営利団体である企業から大学は研究の題材と研究資金を得るが、果たして大学は企業の下請けのように資本主義に媚を売らねばならなくなつたのだろうか。科学研究費は世界においてアメリカに次ぐ第二位の座であるが、そのほとんどが企業からの資金であり、GDP比における国の算出はG8の国々の中で最も割合が低く、近年ではさらに減少傾向にある。外部資金の得られない純粋学問は大学にとってお荷物となり、衰退の一途をたどる可能性がある。果たして大学という機関は一体どのような存在意義を持っているのだろうか。産学官における統一した認識の形成が必要なのではないだろうか。

#### (エ) 博士号取得の意義

問題意識：高学歴ワーキングプア製造過程「博士課程制度」と博士号

背景：誰もが通る通過儀礼「就職」。言及されて久しいポストク問題をはじめとして、博士過程修了者の就職はイバラの道のようなものである。大学は教育機関であるにも関わらず、輩出する学生の自立を保障しない。もし大学が教育機関であり、博士過程がその最上のものであれば、そこから輩出される博士号取得者は最上の市場価値をもって然るべきではなからろうか。しかし、現実とは逆のようなものである。この状況はイビツであるし、また博士号取得者達自身がその市場価値を下げているのかもしれない。就活市場における博士号の価値から、博士号取得者の今後の行動、今後の博士過程のあり方で根本的に話し合いたい。

**【2012年 フォーラム幹事より参加学生へのメール2】**

2012/11/7

件名：ポスター賞の賞品

博士学生交流フォーラム  
ご参加の皆様,

今週末にせまった博士交流フォーラムでは、みなさま、お力添えのほどよろしく願  
いいたします。

さて、ポスターセッションでの優秀ポスター賞の賞品をお知らせします。

-----  
【一等賞】 android タブレット NEXUS-7

<http://kakaku.com/item/K0000421212/>

【二等賞】 プレゼンテーションリモコン

INTERLINK プレゼンヌ プレゼンテーションリモコン VP4567

[http://www.amazon.co.jp/SMK-VP4567-INTERLINK-プレゼンヌ-プレゼンテーション  
リモコン](http://www.amazon.co.jp/SMK-VP4567-INTERLINK-プレゼンヌ-プレゼンテーションリモコン)

[/dp/B002TKKPM/ref=sr\\_1\\_2?s=computers&ie=UTF8&qid=1352083524&sr=1-2](http://dp/B002TKKPM/ref=sr_1_2?s=computers&ie=UTF8&qid=1352083524&sr=1-2)

-----  
産業界、教員、学生、すべての参加者の方々に以下の観点で優秀だと思われるポスター  
に対して二票投じていただき、上位の二つに関して表彰させていただきます。今後、  
科研費の申請や、奨学金の申請時にも「八大学連合博士交流フォーラム於 優秀ポス  
ター賞」と記載ができますので、是非、みなさま、がんばってください。

評価の観点は以下の通りです。

- ・説明のわかりやすさ
- ・図や表、ポスター自体のみやすさ
- ・研究に対して興味をひくような工夫

それでは、当日みなさまにお会いできますことを楽しみにしております。

## 【2012年 フォーラム幹事より参加学生へのメール3】

2012/11/8

件名：博士交流フォーラムについて

博士交流フォーラムにご参加の皆様、  
(English version is found below as well)

いくつかの連絡がございますので、以下ご確認ください。

### 1.ポスターセッションについて

- ポスターセッションは A0 ポスターの形式を奨励はいたしますが、必須ではございません。皆様が最適と思われる形式でお願いします。
- ポスターセッションの進行ですが、前半と後半の2グループに分かれていただき、一方が説明員、もう一方が評価員となって各自まわっていただきます。
- それと同時進行で、説明員側は全体への自己紹介と簡単な研究紹介を順番にやっていただきます。一人一分で、自己紹介と研究紹介を行なってください。一分で研究を説明することは厳しい試練ではありますが、非常に重要なことだとも思いますので、ご尽力のほどお願いいたします。

### 2.ワーキンググループについて

- 私のほうで僭越ではございますが、各大学ごとに議論の進行役を選ばせていただきました。各グループ、進行役の方と協力して議論を進めていただければ幸いです。
- 模造紙、ポストイット、ペンを用意いたしますので、適宜ご使用になってください。
- ワーキンググループは以下のようになっております。

A 班：博士課程の存在意義 内海さん、板垣さん、Zhang さん、坂東さん、

B 班：博士課程の存在意義 東郷さん、鈴木さん、鏑木さん、田中さん、山元さん、

C 班：大学における教育の在り方 岩井さん、溝部さん、井波さん、織江さん、正尾さん、

D 班：大学における教育の在り方 三井さん，鶴田さん，西村さん，阿部さん，林さん，

E 班：大学の存在意義 KATZAKIS さん，久保さん，廣内さん，朝比さん，

F 班：大学の存在意義 花田さん，河口さん，田代さん，チョンさん，

G 班：博士号取得の意義 榛葉さん，松田さん，中村さん，川口

H 班：博士号取得の意義 菅原さん，畠山さん，坂井さん，黒沼さん，福王さん，

当日，みなさまとお会いできることを，楽しみにしております。

せっかくですので，楽しい時間にいたしましょう。ご協力，お願いいたします。

----- English version -----

Please kindly be aware of some items mentioned below for the forum.

1. Concerning with the poster session,

- A0 size is recommended for the poster format. It is not necessary to force yourself remake your ready-made. Please prepare the poster as you like.

- In the poster session, we are going to be divided into two groups. The first group will make presentation, for example, the other group will be observer.

- During the session in parallel, you may be asked to introduce yourself as well as your research in 1min. It would be difficult to make brief explanation of your research in 1min.

However it should be a good practice. So, please kindly understand and cooperate the procedure.

## 2. Concern with the working group

- On the behalf of the organizing team, I selected some facilitator out of participants. So please be so kind to cooperate with the team and the facilitator of your group which you belong to.

- Paper, Postit, Pens are prepared for the group session. Please feel free to use them.

- The group are

Group A : The meanings of doctoral candidate course 内海さん, 板垣さん, Zhang さん, 坂東さん,

Group B : The meanings of doctoral candidate course 東郷さん, 鈴木さん, 鏑木さん, 田中さん, 山元さん,

Group C : The education in University 岩井さん, 溝部さん, 井波さん, 織江さん, 正尾さん,

Group D : The education in University 三井さん, 鶴田さん, 西村さん, 阿部さん, 林さん,

Group E : The meanings of existance of university KATZAKIS さん, 久保さん, 廣内さん, 朝比さん,

Group F : The meanings of existance of university 花田さん, 河口さん, 田代さん, チョンさん,

Group G : The meanings of Doctoral degree 榛葉さん, 松田さん, 中村さん, 川口

Group H : The meanings of Doctoral degree 菅原さん, 畠山さん, 坂井さん, 黒沼さん, 福王さん,

Looking forward to seeing you soon. I would ask your great cooperation to share a good time together.

Thank you very much

**【2013年 フォーラム幹事より参加学生へのメール1】**

2013/10/11

件名：【博士学生フォーラム】フォーラム参加学生の皆様へのご案内（京大学生幹事 久保）

八大学博士学生交流フォーラム 参加学生の皆様

京都大学学生幹事代表の久保です。

この度は平成25年度博士学生交流フォーラムへのご参加，まことにありがとうございます。

この先，私より直接，皆様へフォーラムに関する連絡とご案内をさせていただきます。

フォーラムに関する連絡は，本メールのとおり件名の頭に【博士学生フォーラム】と付記いたしますので，メールの整理にご活用ください。

また，皆様よりご質問のメールなど送られます場合にも，同様にして頂きますと幸いです。

////////////////////////////////////

この度は研究活動にお忙しい中，フォーラム参加のために貴重なお時間を頂き，まことにありがとうございます。

本フォーラムは，博士学生らの大学を越えた幅広い人的交流関係の構築と相互触発を目的として創設され，今回で第10回を迎えます。

本年度は，これまで以上に「学生による学生のためのフォーラム」としての側面に注力し，特に活発な人材交流を促すための新しい試みを行っております。

主催団体である八大学工学系連合会とフォーラムについては下記のリンク先（八大学工学系連合会 博士学生交流事業）

<http://www.8uea.org/b-04-koryu.html>

協賛団体であるUCEE ネットについては下記のリンク先（NPO 法人UCEE ネット）をご参照ください。

<http://www.uceenet.org/wp/>

さて、おそらく多くの学生の皆様が指導教員などから指名を受け、フォーラムの詳細や目的もよくわからないまま参加することになっておられるのではないかと思います。

実のところ京大の幹事学生らも同様ではありましたが、任命を受け、多くの時間と手間をかけるからには、自分達にとって意義のあるものにするべく運営を行っております。

皆様におかれましても、九州から北海道まで広く博士学生が集い、産業界や大学関係者と近い立場で意見を交わせる機会を、十分に「利用する」つもりで臨んで頂ければと思います。

フォーラムでは、特別講演・ポスターセッション・グループ討論の3つのイベントが行われます。

皆様には、ポスターセッションとグループ討論への参加と協力を頂くことになります。概要は以下のとおりです。

- ・ポスターセッション

自身の研究紹介についてのポスター展示と発表。参加者全員による審査と投票を行い、ポスター賞（賞品有り）を決定する。

- ・グループ討論

「八年後の博士課程を考える」を討論課題として、産業界・教員アドバイザーを交えて討論を行い、10分程度の発表を行う。

ポスターの作成方針や、グループ討論についての詳細は添付ファイル（ポスター\_グループ討論詳細）をご参照ください。

またタイムテーブルと当日の動きをまとめた案内(タイムテーブル\_v1, 当日の流れ)を添付いたしますので、こちらもご確認ください。

タイムテーブルにつきましては、都合により多少変更がある場合がございますので、ご了承ください。(開始・終了時刻に変更はありません)

また、以下の情報については、後日あらためてご連絡させていただきます。

- ・ポスターセッションのグループ
- ・グループ討論の班分け
- ・パンフレット用の自己紹介ページの作成要領

Facebook ページにて、フォーラム関連情報や会場周辺の案内などを発信しておりますので、よろしければこちらもご参考ください。

<https://www.facebook.com/8dair>

雑多な情報をまとめてお送りしてしまい、大変恐縮です。

しかし、この度第10回という節目であることに加え、幸いにも多くの良い境遇にあったこともあり、フォーラムをより「学生にとって」価値のあるものとするべく、抜本的な見直しを図りたいと企画を進めております。

どうぞ皆様のご理解とご協力を頂き、全員にとって意義のある二日間となれば幸いです。

長くなりましたが、フォーラム当日に皆様とお会いできますことを幹事一同楽しみにしております。

質問などございましたら、久保 [kubo.taiki.32n@st.kyoto-u.ac.jp](mailto:kubo.taiki.32n@st.kyoto-u.ac.jp) までご連絡ください。

## 【2013年 フォーラム幹事より参加学生へのメール2】

2013/10/20

件名：【博士学生フォーラム】パンフレット用自己紹介ページ作成のお願い（京大学生  
幹事 久保）

八大学博士学生交流フォーラム 参加学生の皆様

京都大学 学生幹事代表の久保です。

皆様、研究活動お疲れ様です。

本メールでは、当日配布するパンフレット用の自己紹介ページの記入フォーマットと記入例を送らせて頂きます。

お手数ではありますが、各自で作成の上、久保 ([kubo.taiki.32n@st.kyoto-u.ac.jp](mailto:kubo.taiki.32n@st.kyoto-u.ac.jp)) まで返信願います。

日本語・英文両方のフォーマットを添付しております。お好みの形式で作成ください。

返信の際には、メールの件名を、「【博士学生フォーラム】パンフレット用自己紹介ページ返信」、ファイル名を「〇〇大学\_名前」としてください。

連絡メール受信の確認も兼ねておりますので、10月25日（金）までに返信を頂けますよう、ご協力お願いいたします。

（研究・学会準備などで忙しくどうしても遅れる場合には、その旨を簡単に記入しこのメールに返信ください）

また配布データは、フォーラムの facebook ページからもダウンロードできます。

<https://www.facebook.com/8dair>

フォーラム開催まで、およそ3週間となりました。

先日の台風が残暑を吹き飛ばしたようで、京都も長袖が必要な季節となっております。

皆様がお越しになる頃には、紅葉も盛りではないかと思われま  
引き続きフォーラム終了まで皆様のご協力を頂けますよう、お願いいたします。

////////////////////////////////////

Dear all,

I send the self-introduction format for the pamphlet of Dr.student forum.

Please fill in either Japanese or English version and send it back to KUBO

([kubo.taiki.32n@st.kyoto-u.ac.jp](mailto:kubo.taiki.32n@st.kyoto-u.ac.jp)) by October 25th.

Write the reply mail subject as 「【博士学生フォーラム】パンフレット用自己紹介ペ  
ージ返信」 and file name as 「○○大学\_your name」

This email serves as the confirmation of the reception.

Please reply to this email if the making of yours is late.

Thank you for your cooperation.

We are looking forward to seeing you.

**【2013年 フォーラム幹事より参加学生へのメール3】**

2013/10/31

件名：【博士学生フォーラム】ポスターセッションおよびグループ討論に関してのご案内

八大学博士学生交流フォーラム 参加学生の皆様

京都大学 学生幹事代表の久保です。

皆様、研究活動お疲れ様です。

本メールにて、フォーラムにおけるポスターセッションおよびグループ討論の班分けと、ポスター賞についてのご案内を申し上げます。

詳細の前に皆さんに一点お願いをいたします。

ポスターセッション用に発表者リストを作成したいと考えておりますので、

「展示予定のポスターのタイトル」と「研究室名と指導教員のお名前」をお知らせ頂けませんか。

当日、ポスター展示会場にお越しの方に自由にとり取ってもらえるようにしたいと思いますので、11/6までに返信頂けますようお願いいたします。

////////////////////////////////////

This mail informs you about the details of the group discussion and the poster session.

And, we are making the list of poster presenters for visitors.

So, please send me your "poster title" and "your laboratory name and supervisor" by Nov.

6th.

////////////////////////////////////

・グループ討論について

グループ討論では、6班にわかれて頂き「八年後の博士課程を考える」を課題にアドバイザーの方を交えて討論を行って頂きます。

(討論課題の詳細などにつきましては、10/11送信の"【博士学生フォーラム】フォーラム参加学生の皆様へのご案内"に添付のポスター\_グループ討論詳細.docxをご参照ください)

班分けと部屋割は本メール添付のフォーラムグループリスト.xlsxの"グループ討論"シートをご参照ください。

部屋番号がそのまま班名となります。

グループ討論では、こちらでノートPCと簡単な資料を用意する予定ですが、必要と考える方は各自で道具・資料を持ちこんで頂いて結構です。

各大学での教育・進学カリキュラムについての情報があると便利かと思います。

なお、京都大学構内でのインターネットアクセスなどの情報については、Facebookページ <https://www.facebook.com/8daidr> を参照ください。

(学外の方の利用には事前の手続きが必要となります)

発表では、プロジェクターと書類を投影する書画カメラがご利用頂けます。

・ポスターセッションについて

ポスターセッションでは、4グループに分かれて20分ずつ質疑応答の時間を設けております。

ポスターグループは、前述のグループ討論の班内でなるべく重複しないように割り振っておりますので、討論前のコミュニケーションの機会としてもご活用ください。各自の所属グループは、本メール添付のフォーラムグループリスト.xlsxの"ポスターグループ"シートをご参照ください。

ポスター番号の表示はこちらで準備しますので、ポスターへの記載は不要です。

また、こちらで皆様の名刺代わりに所属・名前・メールアドレスを記載した簡単なネームカードを作成したいと思います。

当日お渡ししますので、ご自由に活用ください。

・ポスター賞について

ポスターセッションでは学生・教員・産業界メンバーの全員から投票を頂き、ポスター賞を授与させていただきます。

審査項目は、

- 1：ポスターの完成度
- 2：質疑応答の適切さ
- 3：興味関心を引く発表の工夫

とし、得票者上位2名が最優秀賞・優秀賞、項目3の最多得票者がフォーラム賞となります。

各賞には、賞状とともに下記の賞品の授与を予定しています。

- ・最優秀賞：Nexus7(2013) 16G
- ・優秀賞：Bluetooth マウス、キーボードのセット
- ・フォーラム賞：???

学会や学術会議といった厳格な場でないこと、他分野や研究者以外の方も集まることを考慮の上、どうぞ自由な発想で発表を行ってください。

\*\* レギュレーション決定者である久保は、（賞をとってもとらなくても格好つかないので）投票対象外となります \*\*

最後に、タイムテーブルに一部変更がありましたので、修正版の"タイムテーブル\_v2.pdf"を添付しております。

こちらをご確認ください。

ポスターについての連絡が遅くなり大変申し訳ありません。

質問やグループについての問い合わせは、久保 [kubo.taiki.32n@st.kyoto-u.ac.jp](mailto:kubo.taiki.32n@st.kyoto-u.ac.jp) までお願いいたします。

それでは、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

フォーラム当日に皆様にお会いできますことを幹事一同楽しみにしております。

## 【2013年 フォーラム幹事より参加学生へのメール 4】

2013/11/5

件名：【博士学生フォーラム】フォーラム当日の諸注意

参加学生の皆様方

京大学生幹事の久保です。

いよいよ今週末の開催となりました。

本メールでは当日の会場・スケジュールに関する諸注意をご連絡させていただきます。

- ・ 8日（フォーラム第一日）の昼食について

キャンパス内では生協食堂・レストラン・カフェがご利用頂けます。

詳細は下記のリンク（京都大学 施設案内）をご参照ください。

<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/coop/>

ただし、食堂は昼食時(12:00～13:00)には非常に込み合いますので、ご注意ください。

また、キャンパスから徒歩圏内にコンビニなどありませんので、

昼食につきましては、なるべく駅などで事前にすましておくことをお勧めいたします。

- ・ 当日の会場受付について

会場受付にて参加費（懇親会費込 3,000 円）をお支払頂き、パンフレットや名札などをお渡しします。

また受付後に、ポスターを各自で展示して頂きます。

受付は特別講演開始の直前まで行っておりますが、ポスター掲示の時間なども考慮し、余裕をもってご準備をお願いします。

会場にクロークはありませんが、着替えなどの荷物は各班に割り当てられた会議室に置いておくことができます。

講演やポスターセッション中は施錠いたしますが、受付時間中などは人の出入りがありますので、貴重品につきましては各自での管理をお願いいたします。

・ 宿泊に関して

ホテル宿泊の方は、各自でチェックイン時に料金のお支払（朝食付き 8,380円）をお願いいたします。

（二次会などでグループが分かれると思いますので、幹事側での管理は行いません）  
宿泊料金の請求は各大学事務となりますので、領収証の形式などは各大学ごとに対応いたします。

ホテルから大学までの移動ルートのとめを添付します。主要ルートには京大幹事学生が同行する予定です。

9日（二日目）の会場は9時から開放しておりますので、グループ討論の各班で調整しお越してください。

初日・二日目ともコーヒーブースと簡単なお菓子を用意する予定です。ご利用ください。

## 【2013年 フォーラム幹事より参加教員・アドバイザーへのメール1】

2013/10/23

件名：【博士学生フォーラム】京大フォーラム参加者の皆様へのご案内（京大学生幹事 久保）

八大学博士学生交流フォーラム 参加者の皆様

京都大学学生幹事代表の久保です。

この度は平成25年度博士学生交流フォーラムへのご参加とご協力を頂き、まことにありがとうございます。

本メールにて、フォーラムに関する連絡とご案内をさせていただきます。

事務的な手続きの確定のためお伝えが遅くなり、大変申し訳ありません。

また、一部に先に送信されております参加依頼の内容と重複する部分がありますが、ご了承願います。

フォーラムに関する連絡は、本メールのとおり件名の頭に【博士学生フォーラム】と付記いたしますので、メールの整理にご活用ください。

また、皆様よりご質問のメールなど送られます場合にも、同様にして頂けますと幸いです。

本メールにて、以下の情報をお伝えさせていただきます。

- ・フォーラム趣旨
- ・タイムテーブル
- ・フォーラム当日の流れ
- ・ポスターセッションとグループ討論の詳細

この度はご多忙の中、フォーラム参加のために貴重なお時間を頂き、まことにありがとうございます。

本フォーラムは、博士学生らの大学を越えた幅広い人的交流関係の構築と相互触発を目的として創設され、今回で第10回を迎えます。

本年度は、これまで以上に「学生による学生のためのフォーラム」としての側面に注力し、特に活発な人材交流を促すための新しい試みを行っております。

フォーラムでは、特別講演・ポスターセッション・グループ討論の3つのイベントが行われます。

皆様には、ポスターセッションにおける審査とグループ討論へのご協力をお願いいたします。

概要は以下のとおりです。

- ・ポスターセッション

学生らが自身の研究紹介についてのポスター展示と発表を行う。参加者全員による審査と投票を行い、ポスター賞（賞品有り）数名を決定する。

- ・グループ討論

「八年後の博士課程を考える」を討論課題として、産業界・教員アドバイザーを交えて討論を行い、最終日に10分程度の発表を行う。

ポスターの作成方針や、グループ討論についての詳細は添付ファイル（ポスター\_グループ討論詳細）をご参照ください。

またタイムテーブルと当日の動きをまとめた案内（タイムテーブル\_v1, 当日の流れ）を添付いたしますので、こちらもご確認ください。

タイムテーブルにつきましては、都合により多少変更がある場合がございますので、ご了承ください。（開始・終了時刻に変更はありません）

また、以下の情報については、後日あらためてご連絡させていただきます。

- ・ポスターセッションのグループ
- ・グループ討論の班分け

Facebook ページにて、フォーラム関連情報や会場周辺の案内などを発信しておりますので、よろしければこちらもご参考ください。

<https://www.facebook.com/8dair>

雑多な情報をまとめてお送りしてしまい、大変恐縮です。

長くなりましたが、フォーラム当日に皆様とお会いできますことを幹事一同楽しみにしております。

質問などございましたら、久保 [kubo.taiki.32n@st.kyoto-u.ac.jp](mailto:kubo.taiki.32n@st.kyoto-u.ac.jp) までご連絡くださいませ。

## 【2013年 フォーラム幹事より参加教員・アドバイザーへのメール2】

2013/11/7

件名：【博士学生フォーラム】グループ討論・ポスターセッションについてのご案内と  
諸注意（京大 久保）

八大学博士学生交流フォーラム 参加者の皆様

京都大学学生幹事代表の久保です。

フォーラムへのご参加とご協力を頂き、まことにありがとうございます。

本メールにて、グループ討論と学生ポスターセッションについての詳細をご案内させていただきます。

また、グループ討論での班分け（フォーラムグループリスト\_改定.xlsx）、タイムテーブル修正版（タイムテーブル\_v2.pdf）、ポスター発表者リスト（ポスターリスト.xlsx）を添付しております。ご確認ください。

ご案内がフォーラム前日と遅くなり、大変申し訳ありません。

### ・グループ討論について

グループ討論では、6班にわかれて頂き「八年後の博士課程を考える」を課題に教員・アドバイザーの方を交えて討論を行って頂きます。

（討論課題の詳細などにつきましては、10/23送信の"【博士学生フォーラム】 京大フォーラム参加教員の皆様へのご案内（京大学生幹事 久保）"に添付のポスター\_グループ討論詳細.docx をご参照ください）

班分けと部屋割は本メール添付のフォーラムグループリスト\_改定.xlsx の"グループ討論"シートをご参照ください。部屋番号がそのまま班名となります。

なお、京都大学構内でのインターネットアクセスなどの情報については、Facebook ページ <https://www.facebook.com/8daidr> を参照ください。

（学外の方の利用には事前の手続きが必要となります）

発表は2日目に各班15分として行います。

・ポスターセッションについて

ポスターセッションでは、4 グループに分かれて 20 分ずつ質疑応答の時間を設けております。

ポスターグループは、前述のグループ討論の班内でなるべく重複しないように割り振っておりますので、討論前のコミュニケーションの機会としてもご活用ください。各学生の所属グループは、本メール添付のフォーラムグループリスト.xlsx の"ポスターグループ"シートをご参照ください。

ポスターセッションでは学生・教員・産業界メンバーの全員から投票を頂き、ポスター賞を授与させていただきます。

審査項目は、

- 1：ポスターの完成度
- 2：質疑応答の適切さ
- 3：興味関心を引く発表の工夫

とし、得票者上位 2 名に最優秀賞・優秀賞、項目 3 の最多得票者にフォーラム賞の授与を行います。

また、その他のご留意頂きたい事柄としまして、

・ 8 日（フォーラム第一日）の昼食について

キャンパス内では生協食堂・レストラン・カフェがご利用頂けます。

詳細は下記のリンク（京都大学 施設案内）をご参照ください。

<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/coop/>

ただし、食堂は昼食時(12:00～13:00)には非常に込み合いますので、ご注意ください。

キャンパスから徒歩圏内にコンビニなどありませんので、昼食はなるべく駅周辺などで事前にすましておくことをお勧めいたします。

・当日の会場受付について

会場受付にて参加費をお支払頂き、パンフレットや名札などをお渡しします。ポスターセッションの投票用紙も同封しております。

会場にクロークはありませんが、着替えなどの荷物は各班に割り当てられた会議室に置いておくことができます。

講演やポスターセッション中は施錠いたしますが、受付時間中などは人の出入りがありますので、貴重品につきましては各自での管理をお願いいたします。

・宿泊に関して

ホテル宿泊の方は、各自でチェックイン時に料金のお支払（朝食付き 8,380円）をお願いいたします。

（二次会などでグループが分かれると思いますので、幹事側での管理は行いません）  
宿泊料金の請求は各大学事務となりますので、領収証の形式などは大学ごとに対応いたします。ホテルから大学までの移動ルートのまとめを添付します。主要ルートには京大幹事学生が同行する予定です。

9日（二日目）の会場は9時から開放しておりますので、グループ討論の各班で調整しお越してください。

初日・二日目ともコーヒーブースと簡単なお菓子を用意する予定です。ご利用ください。

それでは、引き続き皆様のご協力をよろしくをお願いいたします。

フォーラム当日に皆様にお会いできますことを幹事一同楽しみにしております。

## 【2013年 フォーラム幹事より参加学生へのメール（終了後）】

2013/11/13

件名：【博士学生フォーラム】フォーラム参加学生アンケート

フォーラム参加学生の皆様

京大学生幹事の久保です。

皆様、先週はフォーラムへの参加・協力まことにありがとうございました。  
教員や産業界アドバイザーらからも学生の熱意が感じられ、非常に良いフォーラムであったというコメントを頂いています。

何より私自身とても良い時間を過ごすことができたと思っております。

フォーラムにて撮影しました集合写真を送らせて頂きます。

そのほかポスターセッションや討論グループでの写真などもお渡ししたいと思っておりますが、配付方法を考え中です。

またフォーラムに関するアンケートを送らせて頂きます。

特に締切などは設けませんが、次回の学生幹事達の労力が大幅に減るだろうと思っておりますので、ぜひ協力ください。

返信は久保 ([kubo.taiki.32n@st.kyoto-u.ac.jp](mailto:kubo.taiki.32n@st.kyoto-u.ac.jp)) までお願いいたします。

記名は不要です。また内容は私の方で確認せず、別の方に集計してもらいますので、遠慮なく忌憚ない意見をどうぞ。

また、二日目のグループ討論発表で作成したスライドを自身のPCに保存していらっしゃる方は、参考のため私まで送っていただけますでしょうか？

皆様の多大なご協力に改めてお礼を申し上げます。

今回限りの縁とせず、今後も学会や大学間イベントなど何かしらの形でお会いできる機会があればうれしく思います。

【2013年 フォーラム幹事より参加教員・アドバイザーへのメール（終了後）】

2013/11/18

件名：【博士学生フォーラム】フォーラムご協力の御礼と全体写真の送付（京大学生幹事 久保）

八大学博士学生交流フォーラム

参加の皆様方

京都大学学生幹事代表の久保です。

この度はご多忙にも関わらず平成 25 年度博士学生交流フォーラムへご支援・ご参加を頂き、まことにありがとうございました。

反省の残る点や次への課題もまだまだありますが、ひとまずは無事に二日間の日程を終えられたことに安堵しております。

終了後に学生らからのコメントをもらっていますが、改めて自分たちの「博士課程」について考える良い機会となったようです。

本メールに、全体集合写真2枚を添付しております。

既にご案内の通り、大学の広報ページなどに掲載させて頂く予定です。

もしも不都合などございましたら、ご連絡ください。

その他の写真を含めた広報ページの製作につきましては、予定よりも遅れております。

仕上がり次第、改めて確認の連絡をさせていただきます。

二度手間となりますが、ご容赦ください。

御礼のご連絡が遅れたこととあわせ、大変申し訳ありません。

皆様の、温かいご指導・ご助力に幹事学生一同を代表し、重ねて御礼申しあげます。

**【2013年 フォーラム幹事より参加者へ大学ウェブサイト掲載内容確認のメール】**

2013/12/2

件名：【博士学生フォーラム】 広報用ウェブページ掲載内容確認のお願い

京大博士学生交流フォーラム

参加の皆様

京大学生幹事の久保です。お世話になっております。

先月はフォーラムへの参加・ご協力、大変ありがとうございました。

さて、予定より遅れてしまいましたが、京都大学工学研究科のウェブサイト上に掲載予定のフォーラムのトピックスが出来上がりましたので、確認用のデータを送らせて頂きます。

画像ファイルで申し訳ありませんが、添付の内容で掲載を考えております。

写真など内容に問題がないかをご確認頂き、修正の必要がありましたら、お手数をおかけしますが、久保 ([kubo.taiki.32n@st.kyoto-u.ac.jp](mailto:kubo.taiki.32n@st.kyoto-u.ac.jp)) までご連絡ください。

こちらの都合で大変恐縮ですが、12月5日の公開を予定しております。

それ以降も修正の必要がありましたら、適宜対応をさせていただきます。

以上、どうぞよろしくお願いいいたします。

追記：上記の掲載内容は

<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/topics/all/kyomu/Suea2013>

(京都大学工学研究科 HP トピックス) である。